

キプロス

CYPRUS

TRAVEL PLANNER



KOPIASTE!

コピASTE! ようこそキプロスへ

旅行者の皆さま

地中海には無数の島々が存在していますが、古代ギリシャの愛の女神アフロディーテが唯一“我が家”と呼んだ島、それがキプロスです。マイペースで旅を満喫できる、まるで故郷のようにくつろげるところなのです。

島のビーチは美しいだけでなく、ヨーロッパ有数の透明度も誇っています。そして水晶のように透明な海の広がる海岸線から車でほんの少し行くだけで、そこはもうスギ林の中を野生のヒツジ・ムフロンの群が駆けまわり、ビザンチン時代の美しく重厚なまるで宝石のようなフレスコ画やイコンで飾られた教会や修道院が点在する、松の生い茂るトロードス山域です。

考古学愛好家たちにとってキプロスはまさに天国です。11,000年前の新石器時代の集落やクーリオンの古代劇場などギリシャ・ローマ時代の見事な遺跡群から、コロッシなど中世の要塞に至るまで、キプロスには無数の歴史遺産が存在します。神秘的な王族の墓の数々、保存状態もよく広大でカラフルなモザイクが敷き詰められた床がある館跡など…。

キプロスは地中海で3番目に大きい島ですが、意外にコンパクトで周遊しやすいところです。険しい山々の頂と陽光きらめく海岸線の間には遮るものない景色と緩やかに起伏するブドウ畑が広がります。

長閑な村里ではきっともう一杯のコーヒーでゆっくりしたくなるでしょう。キプロスは食事も楽しみです。キプロスの郷土料理を何種類もセットにしたメゼでは、炭火焼きのスパイスの香る肉料理から新鮮な野菜、伝統チーズのハリミ（塩気の効いた山羊乳や羊乳のチーズ。焼くと美味しい）など、地元の味がいっぺんに楽しめます。文明の要としての豊かな歴史もさることながら、キプロスは近代国家で地域有数の観光大国、サービス先進国です。また、キプロスの人々は親しみやすく温かな国民性を持っています。宿泊施設には、地元色にあふれ国際的にも最高水準ラグジュアリー・リゾートホテル、設備の整ったツーリストヴィラ、古民家を再生したアグロツーリズムホテルなど、様々なタイプがあります。

～ キプロス政府観光局

“...you are welcome in Cyprus”
～ William Shakespeare, “Othello”





目次

- 4 **ディスカバー・キプロス**
アフロディーテの待つ島
- 6 **キプロス悠久の歴史**
キプロスの歴史
- 8 **レフコシア (ニコシア)**
LEFKOSIA (NICOSIA)
ヴェネチア時代の要塞、町に残る古いドア、
活気あるタベルナを見つけよう
- 10 **レメソス (リマソール)**
LEMESOS (LIMASSOL)
何代もの王国、王が栄えた街。世界的なリゾート地。歴史遺産
- 12 **ラルナカ**
LARNAKA
キプロスの玄関口、聖ラザロスの町、海岸沿いの遊歩道を散策しよう
- 14 **パフォス**
AFOS
伝統と習慣が生きているアフロディーテの町
- 16 **トロードス**
TROODOS
松の香り漂う森の中をウォーキング、
ピザンチン教会や絵のように美しい村々を歩いてみよう
- 18 **アモホストス (ファマグスタ)**
AMMOCHOSTOS (FAMAGUSTA)
キプロス南東部の海岸。紺碧の海と砂浜を満喫
- 20 **旅行日程**
キプロス島の歩き方
- 21 **カルチャールート**
キプロスの歴史を旅する
- 22 **目的別ご案内**
キプロスの楽しみ方いろいろ
- 24 **食事**
キプロス料理、レストラン、ナイトライフ、エンターテインメント
- 25 **キプロスワイン**
ワインを知る旅、コマンダリア、ジバニア
- 26 **イベントと祝祭日**
イベント、行事、祝祭日
- 27 **宿泊**
宿泊情報
- 28 **お役立ち情報**
行く前に知っておきたいこと
- 30 **障害者サポートと設備**
- 31 **キプロスの地図**



CYPRUS

キプロス・・・アフロディーテの待つ島

最強の神ではありませんでしたが、残された芸術と考古学が何かしら手掛かりになるとすれば、アフロディーテは紛れもなく最も美しい神でした。太古の昔、キプロスの西岸で波間から現れ、その後一度もこの地を離れることはありませんでした。彼女の神秘的な精神は、オリーブの木々と果樹園という昔と変わらぬ美しい風景からキプロスの人々が旅人を出迎える笑顔に至るまで、今もこの島に息づいています。エキゾチックでありながらも親しみやすいキプロスの人々は、ギリシャ・ローマの時代からEUに至る歴史の変遷の証人であり、この島を誇りに思っています（キプロス共和国はEUのメンバーです）。そして常に旅行者とその広大な文化的豊かさを共有することに喜びを感じています。

地中海東端に位置するキプロスは、常に古代ギリシャと文化的に関連付けて考えられてきましたが、実際には歴史に出てくるような帝国がまだ一切成立していなかった 11,000年ほど前から人類が定住していた土地として知られています。しかしその後、古代ギリシャローマ帝国、ビザンチン帝国、フランク王国、ヴェネチア共和国、オスマン帝国など巨大な勢力に次々と翻弄されますが、歴史を振り返っても、アフロディーテの率直でひたむきな魅力に魅入られなかった権力は殆どありません。キプロスの銅山があったからこそ、古代ギリシャ・ローマ時代の大半を通じて諸国が島を欲しがったのだとしたら - 事実キプロスは銅という言葉（Copper）の由来にもなっていますが - 何世紀にも渡りこの島の存在こそが帝国を突き動かすこの役割を果たしてきたのです。

そして今日においては、キプロスは旅行者たちを惹きつけずにはいられない魅力的な場所となっています。多くの航空便が乗り入れており、これほどまでに目に見える形で過去の形跡をたどることができ、これほどまでにコンパクトでダイナミックなスペースの中でそれを味わえる場所はどこにもありません。昨日までの騒乱は、今日では考古学上の遺跡と魅力的で完璧に整えられた博物館とが織りなす他に例を見ないまるでタペストリーとなっています。現在ヨーロッパでも最高の生活水準を誇る近代的な共和国となった理由がここにあります。

豊かで重層的な過去を探索する

このような長い歴史を持つ島を単に歩いて回るだけでも素晴らしい思い出になり、歴史的な体験を深めることにもなります。首都レフコシア（ニコシア）ではヴェネチア共和国が支配する時代に建てられ現在も街を取り囲んでいる圧倒的な城壁を形作る石に触ることができます。パフォスには聖パウロの柱や、それより古い時代のモザイクの素晴らしいエイオンやディオニソスの館、その他にも過去の美しい遺跡が多数存在しており、この古代都市全体がユネスコの世界遺産に指定されています。クーリオンにあるギリシャ・ローマ建築の劇場や、その近くのアポロン神殿、ペトラ・トゥ・ロミウ（アフロディーテの岩）なども見逃せません。

Petra tou Romiou – Rock of Aphrodite, Pafos





Lemessos promenade



自然の輝き

信じられないほど美しい景色が広がるアカマス半島は、アフロディーテがそこを住み家とした時代から変わらず自然愛好家たちにとってのパラダイスとなっています。そしてアドニスとの愛にちなんで彼女の名を冠した鉱泉「アフロディーテの泉」があります。この泉ではアフロディーテが水浴びしていたという伝説があります。そこからさらに谷間をぬって進むと、太古の時代と同じく、そこから先は道を遮るものはヤギだけという世界です。

静けさとさらに高いレベルのハイキング・コースを目指す人には、トロードス山地があります。海沿いから車で約1時間、高い松の木と雄大な杉の木に覆われた山の頂は、眩いばかりの海岸線の景色とは全く対照的です。

世界の主要貿易港とビーチ

リマソールとも呼ばれるレメソスはキプロス最大の港で、エキサイティングなナイトライフを楽しめる街でもあります。ビーチには4つ星、5つ星のリゾートホテルが軒を連ね、優雅なヨットやクルーザーから、釣り船に至る全てが、港と新しいマリーナを埋め尽くしています。地中海有数の賑わいを見せるリゾート地アヤナパ、すぐ近くのニッシビーチも人気です。キプロスのビーチはその水質の良さで有名で、ブルーフラッグの認定を受けたビーチも数多くあります。ビーチにはウィンドサーフィンやパラセーリング、スキューバダイビングなどの設備も整っています。

気分を変えて、山間の村に向かってみましょう。レースで有名なレフカラ、アーティストたちの村ラニア、眠気を催すような陽光きらめく広場と職人たちの工房が無数に点在する美しい村オモドスなど、時代の流れとは無縁のような石造りの村々にたどり着きます。

全ての旅行者にとっての目的地

キプロスでは、太古の昔から途切れることなく紡がれてきた歴史と、近代的なインフラが整ったコスモポリタンのライフスタイルがシームレスに融合しています。ラルナカの国際空港に降り立った瞬間から、ストレスがなくなりリラックスできるはずです。アフロディーテでさえこの地を立ち去ることができなかったことを考えれば、無理もありません。

古代からの歴史が息づくキプロスで、静かな宝のような時間をお過ごしください。畏敬の念を抱きながらもゆったりと散策しましょう。わからないことがあったら地元の人に尋ねてみてください。きっと親切に教えてくれるでしょう。「コピアステ!」とは、「さあいらっしゃい、一緒に過ごしましょう」という意味で、キプロスの人たちは心からそう呼びかけるのです。

“様々な運命が交差して、地中海の東に位置する小さな島にたどり着き、その歴史に光が当たると、島の歴史はさらに重要な意味を持ち、深みを増す。”

～ローレンス・ダレル
『ロマンがイレモノ』
幾野 宏 訳



That's the sun-kissed spirit of Cyprus.

CYPRUS

キプロス・・・時代を乗り越えて・・・

人がこの地に定住を始めた新石器時代から古代ギリシャ・ローマ時代、そしてビザンチン、フランク王国、ヴェネチアなど、キプロスは多くの文明の交差点です。それら全てを正しく分析するには、鋭い見識を持った考古学者がその生涯を費やさなくてはならないでしょう。しかし太陽の恵みを受けたコンパクトに魅力が凝縮されたキプロスは、途中でビーチやブドウ園、修道院、博物館、タベルナに何度も足を止めたりしながらでも、それよりはるかに短い時間で探索することができます。ペトラ・トゥ・ロミウ（アフロディーテの岩）の青い渦を一目見ればキプロスが何故、何千年にも渡ってこれほど多くの人々を魅了してきたのかがお分かりいただけるはずです。

キプロスにある新石器時代の遺跡は、時代を超越するという言葉の意味を改めて実感させてくれます。ユネスコ世界遺産の地、ヒロキティアは、11,000年前にこの地に定住した人々の集落跡です。この島で銅が発見されたのはBC3900年のこと。古代の商業的、文化的な歴史の行方を変えてしまう出来事でした。しかしそれと同時に、その時々時代に勢力を誇った国々の関心も集めることになりました。古代ギリシャの地理的な活動範囲を考えれば、BC1650年からBC1050年の間にギリシャの商人と（ミケーネ人、アカイア人からなる）入植者たちが、キプロス都市王国を樹立することになったことには何の不思議もありません。その国家の一つであったクーリオンでは、保存状態の良い古代の遺跡の散策・探検が楽しめます。さらに時代が



BC9000年～BC3900年: 新石器時代

島で最古の集落跡はこの時代にまで遡る。石の器や後期は陶器が使われていた。

BC3900年～BC2500年: 銅器時代

キプロス西部では金石併用時代の集落と豊穡祈願の儀式の跡が発見されている。銅の発見。

BC2500年～BC1600年: 初期および中期青銅器時代

BC2400年頃より、アナトリア地方の探掘者たちが銅を求めてこの島にやって来る。彼らは銅の産地だったトロードス山脈のふもとに丘に定住。初期青銅器時代、キプロスでは金属がより広範に使用されるように。キプロスは銅を輸出し始める

BC1600年～BC1050年: 青銅器時代

大貿易時代、銅を盛んに採掘していたこともあって、キプロスは周辺諸国から“アラジア”と呼ばれていた。BC1400年以降、ギリシャの商人と（ミケーネ人、アカイア人からなる）入植者の第1波が島に到達し、ギリシャ語と宗教、習慣が広まって行く。彼らは次第に実権を握り始め、最初の都市王国を樹立する。

BC1050年～BC750年: 幾何学時代

キプロスのヘレニズム（古代ギリシャ）化が完成し、10の都市王国が出来上がる。この繁栄の時期にはアフロディーテの儀式が盛んに行なわれた。

BC750年～BC480年: アルカイック古典時代

繁栄と征服の時代。キプロス諸王国はアッシリア、

エジプト、ペルシャの属国となる。しかしエバゴラス王（在位BC411～BC374年）が統一を果たし、島をギリシャ世界の重要拠点とする。

BC333年～BC325年:

アレキサンダー大王により帝国の一部に編入。

BC310年～BC30年: ヘレニズム時代

アレキサンダーの部下である将軍らによる後継者争いの結果、キプロスはギリシャ国家であるエジプトのプトレマイオス朝の傘下に入り、以後ギリシャ・アレキサンドリアの世に。パフォスが首都となる。

BC30年～AD330年: ローマ時代

キプロスはローマ帝国の一部に。だが聖パウロと聖バルナバスがローマの地方総督をキリスト教に改宗させ世界初の伝道によるキリスト教国となった。313年には信仰の自由が認められ、キプロスの主教たちは325年、ニカイア公会議に出席。この時期は度重なる地震により、都市の再建が進められた。

AD330年～1191年: ビザンチン時代

ローマ帝国分裂後、キプロスはビザンチンの一部となり、キリスト教が国教となる。

聖エレナが島を訪れ、スタヴロヴーニ修道院を建立。この時代もまた地震と街の再建を繰り返す。各地にバシリカ教会堂も建立される。488年聖バルナバスの墓が発見された後、キプロス教会は皇帝ゼノンから完全な自治権が付与される。

1192年～1489年: フランク王国 (リュジヤン

王家) 時代

ギリシャ正教会が正式にカトリック教会に取って替わられるが、カトリック教会は、その後も何とか存続を続ける。アマホストスはこの時期、世界でも有数の豊かな都市であったが、それは最後の女王、カテリーナ・コルナーロが1489年、キプロスをヴェネチアに割譲するまで続いた。

1489年～1571年: ヴェネチア時代

ジェームズ2世の妃でキプロス最期の女王、カテリーナ・コルナーロが1489年に島をヴェネチアに割譲。その結果、ジェノヴァ人は島から徹底的に追放され、ヴェネチアの支配が固まって行く。ヴェネチアの主な目的は、キプロスの支配を確実にすることで、東地中海をどこからも妨害されることなく移動し、海域にヴェネチアの船舶を進出させることにあった。

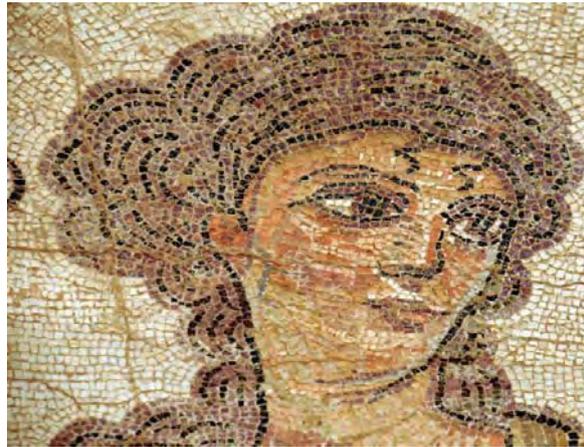
ヴェネチアはオスマントルコの侵入に備え、島を要塞化し、レフコシアとアモホストスの周囲に見事な城壁を巡らせたが、その姿は軍事施設の中の芸術作品のようであった。ヴェネチアの支配が終焉を迎える頃には、ラルナカがキプロスにおけるもっとも重要な港へと発展し、港からは塩が輸出されていた。

1571年～1878年: オスマントルコ時代

オスマントルコによるキプロスの支配は、1571年のアモホストス（フォマグスタ）崩壊によって始まる。ラテン系は島から追放され、キプロスに初めてイスラム教の共同体が成立される。オスマントルコ

進みBC333年になると、アレキサンダー大王がこの地を席捲します。キプロスはエジプトのプトレマイオス朝の支配下に入り、BC325年にはヘレニズム時代が始まります。当時の都はパフォスです。今日王族の墓として知られる地下墳墓が、島が繁栄していた往時の面影を伝えています。(BC30年からAD330年までの)ローマ時代、キプロスの名はラテン語で銅を意味するcuprumと同義でした。

ローマ帝国崩壊後キプロスは、ビザンチンとして知られるコンスタンチノープルを首都とする東ローマ帝国の傘下に入ります。その後フランク王国、リュジニャン家の時代を経て、1489年にはヴェネチアが権力を握ります。レフコシア(ニコシア)の要塞はヴェネチアの堅固な建造物です。島にはオスマントルコとイギリスによる支配の痕跡がまだ残っています。キプロスを探索するにつれ、様々な文明のモザイク模様が次第にクローズアップされてくることでしょう。世界の多くの歴史がまさにこの地で始まり、そして連綿と受け継がれてきているのですから。



支配当初からキプロスの東方正教会には特権が与えられ、教会には宗教的権威のみならず政治的権威がもたらされる。キプロスはオスマントルコ支配下で冬の時代を過ごすことになる。

1878年～1960年: 英国領時代

1878年、英国が島の施政権を獲得、オスマントルコがドイツ側について第一次世界大戦に参戦した後の1914年には併合する。1923年、トルコはローザンヌ条約に基づきキプロスに対する全ての権利を放棄し、1925年、キプロスは英国の直轄植民地に。第二次世界大戦中、キプロス人は志願兵として英国に従軍する。キプロス人の自決への願いはしかし、この島を戦略上の要と考えていた英国の拒絶に遭う。1955年には、反植民地支配、ギリシャとの合併を求める運動が全土に広がり、1959年まで続いた。チャーリッシュ-ロンドン合意によりキプロス共和国樹立。1959年12月13日、大主教マカリオス3世がキプロス共和国初代大統領に選出され、フアジル・クジック博士が副大統領に就任。

1960年: キプロス共和国

キプロスは1960年、独立国家となる。、現在、国連、欧州評議会、EU、イギリス連邦、非同盟運動それぞれの加盟国。しかし英国は2か所の主権基地領域を保持し続けている。

共同体間の衝突を受け、1964年国連平和維持軍がキプロスに着任。1974年7月、トルコ軍が侵略し、島の北側3分の1(37%)を占領。以来トルコ軍は今日まで駐留を続けている。侵略による人道

上、社会的、経済的な影響にもかかわらず、キプロスは今日も堅実かつ健全な経済的基盤に支えられた近代的な社会を維持している。2004年5月にはEUの正式メンバーとなり、キプロスはEUというモザイク状の組織に自らの独自性を加味するとともに、以来、地中海東域におけるEUの灯台としての役割を果たしている。キプロスの島と人々は、近隣諸国やより広範な地域の国々、その人々らとのより緊密な協力、相互理解、対話に向けた道しるべとして存在している。その戦略的な立地条件から、キプロスは今も海洋国家としての豊かな伝統を保ち続けている。現在キプロスが保有する商船隊はEU第3位、世界第10位の規模を誇る。2008年1月にはキプロス・ポンドに代わり正式通貨としてユーロを導入。キプロスはこの島を足がかりに周辺地域へと、そしてさらに離れた国々へと飛び立っていく多くの国際的な企業にとっての本拠地となっている。

“この島の丘は、
さすらいの舟人た
ちがその緑の中
でしばしくつろぎ
たくなるような心
地よさだ。”

そよ風が島と周
りの海を甘い香
りで満たしてい
く...”

～レオナルド・ダ・ビンチ
(AD1452-1519)



レフコシア

LEFKOSIA

首都レフコシア-ヴェネチア要塞、

アンティークな扉や賑やかなタベルナを見つけよう

世界で唯一分断された首都としての特徴を持つレフコシア（ニコシア）は、巨大なヴェネチアの城壁に取り囲れた、歴史と文化が深く染み渡る魅力あふれる古い都市です。キプロス最多を誇る博物館やギャラリー、宗教的、歴史的なモニュメントが、それぞれの時代における島の素晴らしい物語を余すところなく伝えてくれます。堂々たるファマグスタ門が1,000年の歴史を有するこの街を今日も誇らしげに見守っています。城壁の内側には古い街並み、ライキ・イトニアが広がります。狭い石畳の道を進んで行くと、窓に置かれた鉢植えからは赤い花々が垂れ下がり、開け放たれた玄関ドアからは伝統料理の香りが漂ってきます。ジュエリーショップ、ハンディクラフト・ショップ、チャーミングなタベルナでの食事、数百年の歴史ある教会、街歩きの魅力が尽きません。

歴史や芸術好きなら、新石器時代の始まりからローマ帝国時代までの大変貴重な財宝を所蔵しているキプロス博物館にまずは足を運んでみたいと思うかもしれません。ビザンチン博物館では地中海黄金期の目も眩むようなイコンのコレクションに遭遇できます。国立現代美術ギャラリーやプライベートなギャラリーでは、現代キプロスのアーティストたちに焦点を当て新たな視点で作品を展示しています。中には国際的に脚光を浴びているアーティストの作品もあります。

一回りしてまだ時間があれば、キプロス手工芸センターのワークショップを訪れてみましょう、伝統手工芸を当時の方法で学ぶことができます。

いつも前進している街 - 様々な魅力と特徴が幾重にも折り重なったレフコシアはあらゆる意味で島の首都なのです。



左から:リドラリストリート、アフロディーテ像、キプロス博物館

レフコシア (ニコシア) 中心部 LEFKOSIA (NICOSIA) お勧めスポット

キプロス博物館 (The Cyprus Museum (Archaeological))

キプロスの新石器時代からビザンチン初期にかけての遺物、財宝をコレクション

ビザンチン博物館、アート・ギャラリー (Byzantine Museum and Art Galleries)

財団法人大主教マカリオス3世文化センター。キプロス最大のイコン・コレクションを収集。9世紀から18世紀にかけてのもの。所蔵品は油絵、地図、石版画

ニコシア市立レヴェンティス博物館 (The Leventis Municipal Museum of Nicosia)

ライキ・イトニア近く。レフコシアの歴史博物館。古代から現在に至るまでの首都の暮らしを蘇らせている。

民族学博物館 ハジゲオルガキス・コルネシオスの館 (Ethnological Museum - The House of Hadjigeorgakis Kornesios)

レフコシアで最も重要な18世紀の建造物。かつては通訳、ハジゲオルガキス・コルネシオスの館だった。

フォマグスタ門 (Famagusta Gate)

旧市街を取り囲むヴェネチア城壁は11個のハート型稜堡を備える。街には3つの門があり、その一つ、フォマグスタ門と呼ばれるPorta Giulianaは現在レフコシア市立文化センターになっている。

独立闘争博物館 (National Struggle Museum)

1995年~1959年の民族解放闘争に関する文書、写真その他歴史的記念物を収める。

アイオス・イオニアス教会 (Agios Ioannis Cathedral)

1662年、ニキフォロス大主教により建立。壁絵には聖書の場面と聖パルナバスの墓発見の様子が描かれている。

国立現代美術ギャラリー (State Gallery of Contemporary Art)

20世紀のキプロス人アーティストらによる代表的な絵画と彫刻のコレクション

クリサリニオティッサ教会 (Chrysaliniotissa Church)

大主教の館より歩いてすぐ。レフコシア最古のビザンチン様式の教会と考えられる。"レディー・ゴールデン・フラックス"を奉っている。エレナ・パラエオロゴス女王により1450年建立された。

キプロス民族学博物館



(Ethnographic Museum of Cyprus)

(旧大主教の館内) 木造彫刻やタペストリー、刺繍、陶磁器、民族衣装、手織り品など19世紀から20世紀初期にかけてのキプロスの民芸品を幅広く収集。

オメリエ浴場 (Omeriye Baths)

ララ・ムスタファにより、街への贈り物として16世紀に建立される。復元されて現在は公衆浴場として利用されている。

キプロス手工芸センター (Cyprus Handicraft Center)

民芸品と手工芸の伝統促進・発展を目的として活動。敷地にはショールームやショップを備え、ワークショップも開催される。

ニコシア市立アートセンター (The Nicosia Municipal Arts Center)

キプロス有数の近代建築である古い発電所内に位置する。最高水準の現代美術の創作活動促進を目指して活動。

レドラ展望台 (Ledra Museum Observatory)

レドラ通りの シャコラスタワー11階にある展望台からは、レフコシアの街全体のパノラマ景観が楽しめる。街と街の史跡を360度遮るものなく目にする事が可能。

キプロス貨幣博物館 (Museum on the History of Cypriot Coinage)

博物館のコレクションでキプロスにおけるBC6世紀から今日までの貨幣の歴史を辿る。

ビジュアル・アート・センター (CVAR) (Center of Visual Arts and Research)

18世紀から20世紀にかけキプロスを訪れた外国人アーティストによる1000点以上の作品とキプロスの伝統的な衣装の発展の歴史が分かるコスチュームの数々を所蔵

“島はその中心に王国の都である美しい街、レフコシアを戴く。街には、パフォス、ファマグスタ、キレニアという堅固な3つの門を備えた城壁がしっかりと張り巡らされている。中でもファマグスタ門は最も美しく、わたしの考えではパルセロナにもこれに勝るものはない”

~P. Joan Lopez, 1970年

ルキア&ミハラキス・ザンペラス美術館 (Loukia & Michalakis Zampellas Art Museum)

ザンペラス家のコレクションを常設。その分野でのパイオニア的存在である本美術館はキプロスとギリシャの現代美術のアーティストらによる近現代の傑作芸術を展示している他、キプロスや諸外国のアーティストによる作品も一時展示している。

レヴェンティス・アートギャラリー (Leventis Art Gallery)

市の中心部に建つアート・ギャラリーは、レヴェンティス財団の最も重要なコレクションである800点以上の芸術作品を所蔵。

レフコシア (ニコシア) 郊外

ポリティコ・タマッソス王族の墓 (Politiko-Tamassos Royal Tombs)

レフコシアから17km南西のポリティコ村。タマッソスは銅山で名高い古代キプロスにおける豊かな都市王国。発掘によってアフロディーテ・アシユタルテの遺跡が出土している。

アイオス・イラクレイディオス尼僧院 (Agios Irakleidios Convent)

ポリティコ村。ポリティコ・タマッソス王族の墓から0.5km。AD400に建立されたこの尼僧院は、クリサンソス大主教によって1773年に改修工事が行なわれるまで、何度も破壊・再建を繰り返してきた。聖人らの聖遺物が銀メッキのケースに収められている。

マカイルス修道院 (Machairas Monastery)

レフコシアの南40km。デフテラ村、ペラ村の先。近くの洞窟で聖母マリアのイコンが発見された1148年、2人の修道士により設立。マカイルス山脈の山あいの谷間に美しく佇んでいる。

フィラクドウ村博物館 (Fikardou Rural Museum)

フィラクドウ村カティニオルの民家を利用した博物館。Gourri村 (マカイルス・レフコシア道沿い、Klirouの先) から1.5km東に位置する。16世紀から18世紀にかけて建てられた美しい木造建て民家の数々を保護する目的で、考古学庁により村は重要遺跡に指定される。一部の家屋は1987年、ヨーロッパ・ノストラ賞を受賞。

古代イダリオン博物館 (Local Museum of Ancient Idalion)

イダリオンから出土した数々の貴重な発掘品を展示するために2007年設立された。現在では地区の遺跡を訪れる人たちのための観光センターとしても機能。古代都市イダリオンの歴史の変遷を知ることができる。



Vibrant nightlife of Lemesos Promenade

レメソス

LEMESOS

キプロス最大の貿易港レメソス、

街は歴史の宝庫、そして世界有数のリゾート地

太古の昔から祭りごとの町だったレメソス (リマソール) は、今日も島の祝祭の中心地として力強さと活気を保ち続けています。ビーチでゆったりくつろいだり、歴史上の発見の数々をのんびり探索したりするための要素がここには全て詰まっています。

古代には神々を讃える祭り、中世にはリチャード獅子心王の結婚式が行われ、そして今日ではカーニバルやワインフェスティバルなど、レメソスはいつの時代もエキサイティングなイベントで多くの人々を惹きつけてきました。

またレストランやカフェ、ナイトクラブでは、毎晩のように祝い事で人が集まってきます。それも、例えば サッカーでどこかが優勝したとか突然ロマンスが芽生えたとか、あるいは今日もまた素晴らしい日没が見られたとか、といった些細なことから人生を記念する大切なイベントまでなんでも楽しく祝うのです。漁港から放射線状に伸びる旧市街の狭い路地を進むと、世界有数のモダンなウォーターフロント施設が立ち並ぶ海辺の景色を楽しむことができます。

キプロス中世博物館のあるレメソス城や古い邸宅の敷地内の民芸博物館を探索したり、10kmに及ぶ美しいビーチ、その名も“キプロスのリビエラ”を歩いたり、海のプロムナードを散策したり、市民公園を訪れたり…リゾートホテルが並ぶ海岸沿いの道を東に進むと、キプロスの古代都市王国の一つ、アマサスが見えてきます。遺跡を見終わったら、海底に沈んだ古代の港の近くで一泳ぎするのも一興です。

レメソスの西14kmには中世の要塞、コロッシ城があります。堂々とした威容の塔の周辺には、居住地や砂糖工場もありました。街の西19kmには、島を代表する遺跡、古代都市王国クーリオンがあります。紺碧の地中海を見下ろすギリシャ・ローマ様式の劇場では現代でも演劇やコンサートが催されます。ギリシャ・ローマ時代の重要なもう一つの遺跡アポロン神殿はすぐ隣です。町から離れた山間の地域はキプロスワイン生産の中心地です。レメソスは伝統的なワイン文化と密接に関わっているのです。祭りや歴史そして海も山も一緒に楽しみたいとき、レメソスの体験は欠かせません。



左から:コロッシ城、アヤナバ地区、アマサス遊歩道

レメソス (リマソール) LEMESOS (LIMASSOL) お勧めスポット

キプロス中世博物館/レメソス中世城
(Cyprus Medieval Museum-
Lemesos Medieval Castle)

旧港近く。ビザンチン時代初期の城の敷地内に14世紀建立。1191年リチャード獅子心王とナバレの女王ベレンガリアとの結婚式が行われた。ベレンガリアはこの地でイングランド女王の冠を授かったのである

レメソス考古学博物館
(Lemesos District Archaeological Museum)

市民公園の近く。レメソスから出土した新石器時代からローマ時代にかけての発掘品の豊富なコレクション。

レメソス市立アートギャラリー
(Lemesos Municipal Art Gallery)

キプロスの著名な現代アーティストらの代表的な絵画のコレクションを所蔵。

市民民芸博物館
(Municipal Folk Art Museum)

復元された古民家には、19世紀から20世紀初頭にかけてのキプロスの民芸品の美しいコレクションが展示されている。

キャラブ製粉所跡
(The Old Carob Mill)

レメソス中世城うら。1900年 建築。当時キャラブはキプロスの主要な輸出品だった。キャラブを挽くのに使われた機械がリフォームされたビルに展示されており、当時の雰囲気と現在のハイテク設備とがうまく融合している。

アヤナバ教会
(Agia Napa Church)

19世紀後半と20世紀初頭に建立。聖母マリアを祭る。

彫刻の広場
(Sculpture Park)

広場には1991年～2001年開催の彫刻シンポジウムに向けてキプロス内外のアーティストらによって制作された16点の彫刻が展示されている。

アマサス古代遺跡
(Amathous Archaeological Site)

レメソス・タウンセンターより11km東、



アマサス・ホテル近く。キプロスの古代都市王国の一つ。神話によると テセウスのミノタウロスの戦いの後、身重のアリアドネーをこの地に置き去りにしたとされる。遺跡の歴史はアルカイック、ローマ、キリスト教時代にまで遡る。

レメソス (リマソール)地区

コロッシ城
(Kolossi Castle)

レメソスからパフォスに向かって西に14km。軍事施設の好例。当初13世紀に建設され、その後15世紀半ばに現在の姿に再建された。エルサレムの聖ヨハネ騎士団の司令部、後年はテンプル騎士団の司令部が置かれた。

クーリオン博物館
(Kourion Museum)

レメソスから西に14km、エピスコピ村のクーリオン古代遺跡の4km手前。遺跡からの出土品が古く美しい家に展示されている。

クーリオン古代遺跡
(Kourion Archaeological Site)

レメソスからパフォスに向かって西に19km。古代の重要な都市王国の一つでキプロス島有数の見事な古代遺跡。BC2世紀に建てられたこの壮大なギリシャ・ローマ様式劇場は、現在も音楽や演劇に利用されている。初期キリスト教時代、ユストリオスの館は公共のリクリエーション・センターとなる。初期キリスト教バシリカ教会の歴史は5世紀にまで遡る。アキレウスの館と剣闘士の館の床に

“おたしがキプロスに住みつけば、それがすなおちわたしの国ということになるーで、彼としては、わたしの目を通してキプロスを見ないわけにはいかない。キプロスはたちまちにして多くの女神や鉱泉に満ちあふれた、豊饒な国になってしまった。そのほか数々の古城や僧院、果物や穀物や青々とした草原、それに大勢の司祭やツォシーや山賊……………”

～ローレンス・ガレル 『にがハレモノ』
幾野 宏 訳

はいずれも美しいモザイクが敷き詰められ、ニンファエウムはローマ時代のエレガントな建造物である。スタジアムの歴史は2世紀にまで遡る。

アポロン神殿
(Sanctuary of Apollo Hylates)

クーリオンからパフォスに向かって西に3km。キプロス島で最も神聖な場所の一つとされている。ストラボはクーリオン遺跡の先の岬について書き記している。その岬でアポロの聖なる祭壇に触れた者はたちどころに海に投げ込まれたとされる。この場所やクーリオンの街から見つかった数多くの石版もこの史料を裏付ける内容となっている。森の神アポロンは、クーリオンの守護神である。アポロンはこの地でBC8世紀からAD4世紀まで信仰されていた。神殿には沐浴場や巡礼者のための集会所、体育館、聖域などもあったことが発掘調査から明らかになっている。

クリスの谷
(Kouris Valley)

レメソスから車で20分ほどのクリスの谷には、12世紀に建てられたパナイア・ティス・アマスグウ修道会の教会や、クカ村にあるティミオス・スタヴロス教会、モナグリのアーカンゲロス教会などビザンチン様式の重要なモニュメントが多数存在している。

聖ニコラオス・猫の修道院
(Agios Nikolaos ton Gatou Convent)

レメソス近郊ガタ岬。恐らくはキプロス最古の修道院。礼拝堂の歴史は14世紀にまで遡り、16世紀に遺棄され、1980年初頭、東方正教会の修道女らにより修復された。コンスタンティヌス大帝の母、聖エレーナにより建立される。聖エレーナは聖なる十字架の一部分をこの修道院に残した。キプロスが深刻な旱魃に見舞われた時、この地にはヘビが大量発生する。コンスタンティヌス大帝は司令官カロケロスにキプロスに派遣。カロケロスはヘビ根絶を目的として岬に数千匹もの猫を放った。修道院は今日、数百匹もの猫の棲家となっている。

アクトティリ環境教育情報センター
(Akrotiri Environmental Education and Information Centre)

アクトティリ村内。展示室、図書館、映写室、展望室を備える。地域の歴史、環境に関する教育プログラムを学校に提供している。来館者はアクトティリ半島の環境保護や地質に関連する展示物を見たり、近くの塩湖の美しい眺めを楽しむことができる。



ラルナカ

LARNAKA

キプロスの玄関口、聖ラザロスの地、

ラルナカ。海岸沿いの椰子の並木道を散策しよう。

旅行者の殆どがキプロスで最初に目にするのが、キプロス第2の港で島最大の国際空港のあるここラルナカです。これほどまでに明るい陽射しに迎えられる場所はどこを探してもありません。ラルナカでは美しい空の下に紺碧の海と砂浜が広がっています。

ヨットや帆船が水平線のかなたにまで浮かび、入り江には椰子の並木道が続いています。

ラルナカの国際的なブティックでのショッピングの合間に立ち寄るカフェでは、木陰でのんびりと雄大なオーシャン・ビューを楽しめます。プロムナードの端に見えるのは17世紀の要塞。中世博物館として公開されています。

そこから街の中心に向かうと、すぐにラルナカにとって、そして島にとっても最も大切な場所である聖ラザロス教会です。ラザロスはイエスにより死から蘇った後、キティオンの主教として第二の人生を歩むことを決意します。聖ラザロスの遺体は教会の祭壇の真下、地下にある棺に納められており拝むことができます。

旧約聖書の時代にはキティオンと呼ばれていたラルナカですが、各国の領事館が置かれた1700年代には商業の中心地として栄えました。

世界最古の街、その後も人が住み続けた街ラルナカは観光名所でいっぱいです。近くには18世紀の水道橋の他に、ラルナカ考古学博物館、ピエリデー博物館という二つの素晴らしい博物館があり、いずれも他では見られない島の芸術や文化の遺品を所蔵しています。

ラルナカからレメソスに向かう途中にある美しい村レフカラ。そこでは、500年前に村を訪れたレオナルド・ダ・ビンチのように、伝統手芸レフカラレースの美しさに魅了されること間違いなしです。



左から:フォインクデス遊歩道、マリーナ、ハラ・スルタン・テケそばの塩湖

ラルナカ(LARNAKA) お勧めスポット

ラルナカ考古学博物館 (Larnaka District Archaeological Museum)

新石器時代からローマ時代にかけてのラルナカからの出土品をコレクション。

ピエリーデス財団考古学博物館 (Pierides Foundation Archaeological Museum)

個人によるキプロス・アンティークの見事な展示。メトリオス・ピエリーデス (1811-1895) が収集した作品をその後家族が充実させていった。

ラルナカ中世博物館 - ラルナカ要塞 (Larnaka Medieval Museum - Larnaka Fort)

ラルナカの海岸沿い。1625年建立。英国支配下では監獄として使用されていた要塞で、中世博物館として公開されている。夏季にはイベントスペースとして利用されている

アイオス・ラザロス教会 (聖ラザロス) (Agios Lazaros Church (Saint Lazarus))

聖ラザロスはラルナカの守護聖人。キリストによって復活した後、さらに30年を生きた。聖パレナバスと聖マルコによりキティオン主教の位を授かる。9世紀に建立されたこの教会は17世紀に忠実に復元された。そのイコノスタスは優れたパロック式木彫り作品となっている。

キティオン古代遺跡 (Kition Archaeological Site)

ラルナカ考古学博物館から約500m北西。最も重要な古代都市王国の一つで、その遺構の歴史はBC13世紀にまで遡る。BC1200年頃、ミケーネ系ギリシャ人らにより再建される。発掘により巨大な岩でできた壁と5つの神殿からなる複合施設があったことが明らかになった。

ケビル (ビュック) モスク (The Kebir (Buyuk) Mosque)

ラルナカ要塞の反対側。恐らくはオスマントルコによりキプロスで初めて建立されたモスク。当初は聖13~14世紀に聖カテリーナを祭るカトリック教会だったが、後にモスクに改修された。

ラルナカ地区

カマレス水道橋 (Kamareas Aqueduct)

ラルナカ-レメソス道沿いカマレス地区。18世紀の美しい水道橋。1930年まで実際に使用さ



れていた。

ハラ・スルタン・テケ/塩湖 (Hala Sultan Tekke - Salt Lake)

ラルナカから5km西、キティに向かう通り沿い、ラルナカ空港のすぐとなり。預言者ムハンマドの近親者ウム・ハラムの墓の上に1816年建設された。イスラム教徒の巡礼者にとっては、メッカ、メディナの神殿、エルサレムのアル・アクサ・モスクに次ぐ重要なモスク。

塩湖 (Salt Lake)

ラルナカ塩湖は水鳥にとってヨーロッパにおける最も重要な飛来地の一つ。冬になるとフラミンゴや野生のカモなどたくさんの渡り鳥がやってくる。塩湖と近郊のモスクには新石器時代から人が住んでいたことが発掘調査によって明らかになった。湖の土手に沿って築かれた自然の遊歩道は「アフロディーテ・コース」につながっている。

アングロクティスティ教会 (Angeloktisti Church)

キティ村、ラルナカより7km西。アングロクティスティとは「大天使が建てた」の意。このビザンチン様式の教会は、11世紀、初期キリスト教時代のバジリカ教会の廃墟の跡に建立された。ラベンナ・モザイクにも匹敵するとされる、2人の大天使の間に聖マリアと御子が描かれた6世紀の貴重なモザイクが、建立当初のアプス(教会の祭壇後部)と共に今も残っている。

“プラトンのいわゆる“神の幾何学”を思い出すような絶景のなかを歩いてラルナカへ行く。あちこちに低い丘。ほとんど完全な円錐形で頂上の平らなそのかっこうは、彫刻家のアトリエにあるユークリッド的オブジェといったところだ。風蝕作用? しかし頂上の平らなその幾何学的な丘は、人の手で作った盛り塚のようにも見える。尻尾のふとい羊の群れや、まだらな牧草地や、二つに二つに見えるラクダの列、棕櫚の木、そうした眺めの続く谷間。聖書と、アナトリアと、ギリシャ—それらの香気のみしぎな混合。”

~ローレンス・ガレル 『にがいにレモン』 幾野 宏 訳

ロイヤル礼拝堂 (Chapelle Royale)

レフコシアから35km南、ラルナカから32kmのビルガ村。リュジニヤン家のジェームズ王により1421年建立。ジェームズとその妻シャルロ・ドゥ・ブルボンの肖像画が残る。

スタヴロヴーニ修道院 (Stavrovouni Monastery)

レフコシア-レメソス道から9km、ラルナカから40km先。岩の頂に建っている。スタヴロヴーニとは「十字架の山」の意。伝説によればコンスタンティヌス大帝の母、聖エレーナが4世紀に建立し、聖なる十字架の破片を奉納したとされる。女人禁制だが、男性は出入り自由。聖なる十字架が掲げられる9月14日には、見事な式典と祝賀の儀が執り行われる。スタヴロヴーニ丘陵のふもとの聖リリア修道院には容易に行くことができる。。ここの修道士はイコン制作で高い評価を受けている。

ヒロキティア新石器時代集落遺跡 (Choirokoitia Neolithic Settlement)

レフコシアから南に48km、レフコシア-レメソス道脇、ラルナカから32km先。BC7000年にまで遡る新石器時代の集落跡。発掘調査から世界有数の新石器文化が存在したことが明らかになった。防御壁や円形家屋の基礎、墓、石器などが多数出土。

カラバソス/テント (Kalavassos-Tenta)

ラルナカから40km先、レフコシア-レメソス道脇2.5km。カラバソス村近郊のテントはキプロスで最も重要な新石器時代集落跡の一つ。

レフカラ (Lefkara)

スカリヌ村から8km先、レフコシア-レメソス道脇、ラルナカから40km先。“レフカリティカ”と呼ばれる伝統レース手芸と銀細工で有名な絵のように美しい村。伝説によれば、レオナルド・ダ・ビンチはこの村を訪れている。パツァロス村の美しい家々の中に、レフカラ レースと銀細工博物館が存在している。カトレフカラ内にあるアーカンゲロス・ミカエル教会はドーム型で、12世紀後半の作品を所蔵。パレフカラには、13世紀から18世紀にかけての美しい工芸品の残る聖十字架教会がある。レフカラのレース手芸(レフカリティカ)は2009年、UNESCOの無形文化遺産に登録された。

アイオス・ミナス尼僧院 (Agios Minas Convent)

レフカラ近郊。回廊中央に教会のある15世紀の修道院。尼僧が勤めの合間にイコンを制作している。



パフォス

PAFOS

古くからの伝統と習慣が息づく
アフロディーテの街

古代の神々や英雄、神殿、墓所、そして女神たちが日々の暮らしを織りなしている別世界。パフォスは、愛と美の女神アフロディーテが、海辺に打ち寄せる波間から姿を現した聖地です。ペトラ・トゥ・ロミウまたはアフロディーテの岩と呼ばれる巨岩が目印となっているアフロディーテ誕生の地は古代アフロディーテ信仰の巡礼地でした。。古代ギリシャ時代、かつてのポリスやラッチでは、アフロディーテの泉からの湧水が人々のロマンを掻き立てる舞台装置となっていたことでしょう。アフロディーテの存在は多くの神々や人々を引き寄せずにはおきませんでした。

ディオニソスやオルフェウス、エイオン、テセウスの館には、3世紀から5世紀につくられた見事なモザイクが数世紀にわたって手つかずの状態のままです。その優雅なラインと微妙な色合いは見る者の心を揺さぶるに違いありません。すぐそばにある石作りの小さな円形劇場跡オデオンでは、いまでも古代のように野外コンサートが開かれています。

パフォスでは考古学上の発見が今も続いており、キプロスにおける文明のルーツを辿る上で中心的存在となっています。発掘された工芸品や名作を一目見るなら、パフォス考古学博物館を訪ねるとよいでしょう。

それ以降の時代もしっかりその足跡を刻んでいます。カトパフォスの王族の墓は、ブトレマイオス王朝貴族の墓ですが、広大な石彫りの地下墳墓でハニカム構造になっています。その近くには、聖パウロがキリスト教を布教したために縛り付けられ、むち打ちの刑に処されたという言い伝えの残る柱が天に向かって立っています。クリソロイアティッサ修道院はAD12世紀に建てられ、“黄金のザクロの聖母マリア”が捧げられています。近郊のアイオス・ネオフィトス修道院には世界で最も美しいビザンチン様式のフレスコ画とイコン数点が収められており、敷地内にあるビザンチン博物館を訪れるのも興味深いです。

美しいパフォス港に軒を並べるタベルナでは、新鮮な魚料理、冷たい飲み物や温かいキプロスコーヒを楽しみましょう。。ホテルは様々なタイプがありますので予算や好みに応じて選び、歴史の町パフォスを堪能しましょう。



パフォス(PAFOS)お勧めスポット

パフォス考古学博物館
(Pafos District Archaeological Museum)
新石器時代からAD1700年にかけてのキプロス古代の魅力的なコレクション

民族学博物館
(Ethnographical Museum)
Exo Vrysis 1。新石器時代から現在にかけてのコレクション

アヤ・ソロモニ教会
(Agia Solomoni Church)
カトパフォス。元々は12世紀のフレスコ画が飾られたキリスト教の地下墓地。病を治すという木が信仰されていた。

カトパフォス古代公園
(KATO PAFOS ARCHAEOLOGICAL PARK)
カトパフォス、港の近く。先史時代から中世にかけての遺跡や記念碑が多数存在している。その多くはローマ時代のもの。ローマ時代の4つの館の床に敷き詰められた見事なモザイクが古代公園の中心部をなしている。この部分には、アスクレピオンやオデオン、アゴラ、「サランタ・コロネス」(40の石柱) 要塞、初期キリスト教時代のバジリカである「リモニエティッサ」遺跡、「王族の墓」など他の重要な遺跡も存在する。

パフォス・モザイク
(Pafos Mosaics)
ディオニソス、テセウス、エイオン、オルフェウスという4つの館の床に敷き詰められたモザイクはAD2世紀から5世紀にまで遡る。1962年、農夫によって貴族の館跡の一部が偶然発見された。東地中海地域では最も見事なモザイクとされる。ギリシャ神話を題材とするこれらの作品はモザイク画の傑作でディオニソスの館にはワインの神が、テセウスの館にはミノタウロスに向かってこん棒を構える古代ギリシャ神話の英雄が描かれている。

王族の墓
(Tombs of the Kings)
カトパフォス。BC4世紀のこの地下墳墓は固い岩を彫って作られたもので、一部の支柱にはドリス式の装飾が施されている。その壮麗さから遺跡にはその地名が名づけられた。

パフォス・オデオン
(Pafos Odeon)
カトパフォス。2世紀のオデオン(劇場)。夏場には音楽や劇場として使用される。近くに古代都市の城壁やローマ時代のアゴラが残る。

サランタ・コロネス
(Saranta Kolones)
カトパフォス。港近く。13世紀、ビザンチン時代の城跡にリュジニヤン家により建立。1222年の地震で倒壊。

パフォス中世城
(Pafos Medieval Fort)
カトパフォス港。ビザンチン時代の城砦。リュジニヤン家により再建。1570年、ヴェネ



チア人らにより取り壊され、16世紀再建。

パナイア・クリソポリティッサ教会
(Panagia Chrysolitissa)
教会/聖パウロの柱、カトパフォス。島で最大の初期ビザンチン様式のバジリカの廃墟跡に13世紀建立。「聖パウロの柱」を参照。伝説によると、ローマ総督セルギオ・パウロがキリスト教に改宗する以前、聖パウロがこの場所でむち打ちの刑に処せられたとされる。

パフォス市立アートギャラリー
Gladstonos 7。地元アーティストの作品を展示。

パフォス地区

イエロスキブ民芸博物館
(Ge roskipou Folk Art Museum)
パフォスから3m東、イエロスキブ村。アフロディーテの聖なる庭に因んで命名された。美しい「ハジスミスの館」に民芸品、工芸品を展示。

ビザンチン博物館
(Byzantine Museum)
イエロスキブ広場。7世紀から18世紀にかけてのイコン

アヤ・パラスケヴィ教会
(Agia Paraskevi Church)
パフォスから3m東、イエロスキブ村。ビザンチン様式の教会。バジリカの上にそびえる5つのドームが十字架を形作っている。内部には15世紀の美しい壁画が描かれている。

アフロディーテ神殿・パレアパフォス博物館
(Sanctuary of Aphrodite Palaipafos Museum)
パフォスから14km東、a村パレアパフォス、ククリア村。BC12世紀アフロディーテ神殿跡。パフォスは古代ギリシャ時代、巡礼の地として栄えた。

ペトラ・トゥ・ロミウ(アフロディーテの岩)
(Petra Tou Romiou (Aphrodite's Rock))
アフロディーテ誕生伝説の海岸。パフォスから25km東。愛と美の女神、アフロディーテは目を見張るほど美しいこの地で波間から誕生したと伝説には書き記されている。

レンバ古代遺跡
(Lempa Archaeological Site)
パフォスから5km先。レンバでは村による発掘

左から:コーラル・ビーチ、マリンスポーツ、王族の墓作業で銅器時代の重要な集落が見つかった。遺跡の近くには近年、2棟のレプリカが建設された。

ヘギア村
(Pegeia Village)
パフォスから19km北西 石畳の広場にあるヘギアの泉が有名。村から4.5kmのところには床モザイクの初期キリスト教時代のアイオス・ゲオルギオス聖堂がある。

アイオス・ネオフィトス修道院
(Agios Neofytos Monastery)
パフォスから北へ9km。キプロスの隠修士で作家のネオフィトスにより12世紀末設立。山を切り出した囲いを意味する「エグレイストラ」には、12世紀から15世紀のビザンチン様式の見事なフレスコ画が描かれている。修道院の教会にある教会博物館を訪ねてみるのも面白い。

クリソロイアティッサ修道院
(Chrysoorrogiatissa Monastery)
パフォスから40km北東。12世紀に初めて設立され、「黄金のザクロの聖マリア」が祀られている。現在の建物の歴史は1770年に遡り、重要なイコンと文化財が所蔵されている。

パノパナイア村
(Pano Panagia Village)
トロードスの西側、クリソロイアティッサ修道院から1.5km。初代キプロス大統領大主教マカリオス三世の出生地。マカリオスの生家は現在博物館に改修されている。

ポリス
(Polis)
パフォスから37km北。ポリスはかつて古代都市王国マリオンが栄えていた場所。美しい風土と透明なビーチ、息を飲むような景色から、多くの人が訪れる魅力的なリゾート地となっている。

ポリス考古学博物館 マリオン/アルシノエ
(Polis Archaeological Museum Marion / Arsinoe)
古代都市王国マリオン/アルシノエが栄えたこの地域で発見された遺物の興味深いコレクションを所蔵。本博物館はアフロディーテ文化ルートの中継点にもなっている。

アフロディーテの泉
(Baths of Aphrodite)
アカマス半島、ポリスの近く、パフォスより北へ48km。女神アフロディーテがいちじくの木でさえぎられた天然の洞窟の中の泉で優雅に水浴びを楽しむだとの言い伝えが残る場所は、現在も実際に訪れることができる。恋人アドニスと初めて出会ったのがこの場所。アカマスから続く自然散策路を進んで行くと古代から変わらない絶景が広がる。

ミケーネ殖民博物館
(Museum of Mycenaean Colonisation of Cyprus)
マア・バレオカストロ(コーラルベイ地域)

“キプロスの夜明けと日没とは忘れられないものでーこれこそ比類のないものだとおたしがいつも思っていたロードス島の、そのゆったりとした荘厳さがティムリアスをおおせるような夜明けや日没よりも、もっと美しくらいだ。”

～ローレンス・ザレル 『にがいにモシロ』 幾野 宏 訳



ΚΑΤΑΡΑΚΤΗΣ ΚΑΛΗΔΟΝΙΩΝ
KALIDONIA WATERFALLS

トロόδス

TROODOS

松の香り漂う森をウォーキング、

そしてビザンチン様式の教会と絵のように
美しい村々を探索

太陽の日差しに輝き、杉や松の木々が茂る緑のトロόδス山地は地中海の海辺とはまるで違った風景です。首都レフコシアや商都レメソスのにぎやかな街からはそれぞれ車でたった1時間の距離にあります。キプロスの最高地点、標高1950m（6400フィート）の頂を抱えるトロόδスは、海と空をつなぐところ、トロόδスならではの見どころ満載です。

トロόδスのリゾートをマウンテンバイク、ハイキング、バードウォッチングや自然散策で楽しむなら、カコペトリア、プラトレス、アグロスなどの村々。キプロス固有の植物や動物観察用の標識が設けられていて、山の頂からはまるでレースのように美しい杉林の向こうに青い海景色が望めます。キプロス固有の毛深い野生ヒツジ、ムフロンやアグリノが草を食む姿を間近に見られることもあるでしょう。レモンやオレンジの香りが清々しい山の空気。この自然の美しさは山を大切にすることで永久に約束されるのです。

旅の途中に立ち寄る村々では、山羊のチーズ、新鮮なチェリー、ローズウォーターなど、それぞれの村の名産品でもてなしてくれることでしょう。でももちろんここもキプロスですから、歴史や文化から離れてしまうことはありません。トロόδス山域に数多くあるビザンチン時代の教会のうち10箇所がユネスコ世界文化遺産に登録されています。その他にも有名なキコス修道院やマカイラス修道院のイコンや壁画、そして建物は素晴らしく、ぜひ訪ねたい場所です。



左から:トロードス山域、ハイキング、カコベトリア村

トロードス(TROODOS) お勧めスポット

トロードス環境情報センター (Troodos Square Environmental Information Centre)

トロードス広場 (Plateia) から200m西に位置する。、自然環境分野ではキプロス最初の施設でトロードス国立公園に関する情報を提供している。

トロードス・ジオパーク (Troodos Geopark)

トロードス・ジオパーク・ビジター・センターは、歴史的に重要な旧アスベスト鉱山 (アミアントス鉱山) 跡地に建てられた。植物園もあり、地域の植物に関する情報を提供している。、固有種の種苗センターとしても機能している他、かつて栄えていたこの地域や当時の採鉱作業に関する大量の資料を保管している。

キプロス鉄道博物館 (Cyprus Railways Museum)

トロードス山域エヴリフ村ににあった鉄道駅施設を利用した博物館。館内にはキプロスの鉄道に関するオリジナル資料、絵画、写真などが展示されている。

プラトレス・リゾート (Platres Resort)

プラトレス村は避暑地として人気でスタイリッシュなマウンテン・リゾート。ユネスコ世界遺産に登録されたビザンチン様式の教会も存在する。

ユネスコ世界遺産のビザンチン教会 (UNESCO BYZANTINE CHURCHES)

スタヴロス・トゥ・アヤスマティ (Stavros tou Agiasmati)

プラタニスタザ村、アグロスから15km、レフコシアから30km。古く魅力的なプラタニスタザ村から3km。教会には、15世紀後半に描かれた一連の壁画がほぼ完全な形で残っている。

パナイア・トゥ・アラカ (Panagia tou Araka)

ラグデラ村はアグロスから15km、トロードス-レメソス道 (Karvounas交差点) 脇に位置する。村のすぐ外にある12世紀の教会には見事なフレスコ画が残っている。アシヌ教会やアイオス・ニコラオス・ティス・ステギスの教会と共に貴重なビザンチン様式の教会と考えられている。

アイオス・ニコラオス・ティス・ステギス (Agios Nikolaos tis Stegis)

カコベトリア村。村から北へ5km。11世紀から17世紀にかけて描かれた壁画に埋め尽くされ、最も興味深いビザンチン様式の教会のひとつと考えられている。

ティミオス・スタヴロス (Timios Stavros)



ペレンドリ村、カトミアントスから3km下ったところ、レメソスから32km先。かつてはリュジニヤン家キプロス王ヒュー4世の息子、ジャン・ド・リュジニヤンの領地だった。美しい壁画が特徴で、14世紀に建てられたティミオス・スタヴロス (聖十字架) と、村の中心部に位置するパナイア・カソリキという二つの興味深い教会が存在する。

アシヌ教会 (Asinou Church)

ニキタリ村から5km脇、カコベトリア村から北へ約20km。聖マリアを祀る12世紀前半の教会で、12世紀以降のフレスコ画を所蔵。とても重要なビザンチン芸術作品であるアイオス・イオアニス・ランパディスティス教会

アイオス・イオアニス・ランパディスティス教会 (Agios Ioannis Lampadistis Church)

カロパナイオティス村。13世紀から15世紀のフレスコ画を所蔵する。この教会は二つの教会と一つのチャペルからなる複合施設となっている。10月4日の聖ヨハネの日には渓谷最大の宗教的パザーがこの地で開かれる。村には硫黄鉱泉がある。

パナイア・トゥ・ムトゥラ (Panagia tou Moutoulla.)

山をさらに1kmほど登って行った所にあるのがムトゥラス村。傾斜のきつい木造天井構造のパナイア・トゥ・ムトゥラという13世紀の小さなチャペルには、1280年に作成されたフレスコ画が収められている。参拝者は隣接する家屋からチャペルの鍵を借りられる。ムトゥラ村では伝統工芸の木彫りの鉢が継承されている。

アルカンゲロス・ミカイル (Archangelos Michail, Pedoulas village)

ペドゥラス村のふもとにある壁画教会、その歴史は1474年にまで遡る。

パナイア・ポディトゥ (Panagia Podithou, Galata village)

パナイア・ポディトゥ教会は元々は修道院の教会だった。1502年建立。イタリア・ビザンチンスタイルの壁画が美しい。

救世主の変容教会 (メタモルフォシス・トゥ・ソティロス) (The Church of the Transfiguration of the Saviour (Metamorfosis tou Sotiros))

村を見渡す丘の上にひっそりと佇む16世紀初めの教会。内部には後期ビザンチン時代の壁画が描かれている。

キコス修道院と宝物館 (Kykkos Monastery and Museum)

ペドゥラス村から西へ20km。キプロス最大の修道院。1100年建立。、付属の宝物館にはイコンや写本、法衣、教会装飾品などキプロス・アンティークとしても非常に貴重なコレクションを所蔵している。

オモドス村 (Omodos Village)

プラトレス村から11km南西。ワイン産地。かつてはガリラヤ公ジョン・ド・ブリー卿の領地であった石畳の広場のすぐ横には聖十字架スタヴロス修道院。

フォイニ村 (Foini Village)

リマソールから44km北西 素焼きの壺作りと郷土菓子ルクミが有名。ピラヴァケイオン博物館では壺など伝統民芸品が展示されている。

コイラニ村 (Koilani Village)

ベラ・ベデから1.5km南西。村のアヤ・マヴリ教会は12世紀の典型的な教会建築で単独ドーム天井が特徴的。

アグロス村 (Agros Village)

ピツイリア地区の中心で美しい渓谷美、乾いた気候だが湧水が有名。香り高いローズウォーターやヒヨメリ (燻製ハム)、ルカニカ (スパイスの効いたキプロスソーセージ) など伝統食品を生産している。

“プラトレスではナイチンゲールが君を眠らせてはくれないだろう。鳥の悲しい鳴き声が海に囲まれたこのキプロスの地であたしに祖国を思い出させる。あの寓話のことがいつも心にひっかかっていた。もしこれが本当に寓話なら。もし人間が神々の古いたくらみをもう二度と受け容れることがないのであれば。もしこれが真実なのであれば”

～イオルガス・セフェリス
(ノーベル賞作家) 『ヘレネ』より



アモホストス

AMMOCHOSTOS

島の南東海岸は紺碧の海と広がる砂浜

ゴールデンサンドの輝くビーチと太陽を求める世界中からの旅行者で賑わうアモホストス（ファマグスタ）は、肥沃な赤土の土地でキプロス農業の中心地でもあります。伝統的な風車が並び、現代的な水路が土地を潤しています。

かつて小さな漁村だったアヤナバは、今では地中海有数の活気あふれるリゾートです。ネオンの色鮮やかなカラフルな商店やタベルナ、ナイトクラブなどがすっかり有名になりましたが、16世紀のヴェネチア時代の修道院など歴史的な見どころもあります。

三日月形の港には漁船が幾艘も並びます。朝釣り上げた新鮮な魚がその日のうちに食べられる、漁港近くのレストランやタベルナでの食事もアヤナバの楽しみのひとつです。

スキューバダイビング、水上スキー、パラグライダーなどマリンスポーツだったらアヤナバ。海のすべてを楽しむために人々はキプロスの南東海岸にやってくるのです。

ごつごつした岩と穏やかな入り江とが続く海岸線をケーブグレコに向かって散策し、言葉にならないほど美しい夕日を眺めてみる、また、伝統かご細工で有名な集落リオペトリやソティラ村の小さな教会（15～16世紀）を訪ねてみるのもよいでしょう。

太陽に輝くまばゆいばかりの砂浜がプロタラスから少し西の町パラリムニにかけて続きます。まるで白く洗われたようなパラリムニの町。テラスのあるタベルナの焼き魚はとてもジューシー。現代的なリゾートホテルの並ぶ街から数マイル離れただけで、きっとゆったりした時間の流れを感じることができるでしょう。



左から:アヤナパ・ビーチ、タートル・ロックからのダイビング、ケーブグレコ

アモホストス(プロタラス~アヤナパ) AMMOCHOSTOS (PROTARAS - AGIA NAPA) お勧めスポット

アヤナパ

(Agia Napa)

かつての漁村が現在では一大観光リゾート地に。村の中央には“森の聖女”を祀る中世の魅力的な修道院が建つ。16世紀に建てられた教会は地中に埋まっている部分もあれば、岩をくり抜いて造られている部分も。南門正面のプラタナスは樹齢600年を超えると見られる。海洋生物博物館もおススメ。

1. アヤナパ修道院 (Agia Napa Monastery)

アヤナパの中心部には、“森の聖女”を祀る中世の堂々たる修道院が高い壁に囲まれて建つ。16世紀に建てられたこの教会は、地中に埋まっている部分もあれば、岩をくり抜いて造られている部分も。教会の南門正面には樹齢600年を超えると思われるプラタナスの木が今も成長を続けている。

2. 「サラッサ」アヤナパ市立博物館 (“Thalassa” Agia Napa Municipal Museum)

「サラッサ」市立博物館の主旨は島の歴史における海の重要性と影響力を来館者に提示することにある。古代から現代に至るまでが時系列に展示されている。

3. アヤナパ水道橋 (Agia Napa Aqueduct)

ローマ時代に建設され、フランク王国時代に改築される。水道橋の主な目的は周辺の水源から地元修道院への水の供給にあった。

4. マクロニソス古代遺跡 (Makronissos Archaeological Site)

古代ギリシャ・ローマ時代の地下墳墓。墓室が19室ある。

アヤナパ彫刻の広場

(Agia Napa Sculpture Park)

海を見渡す小高い丘の、地中海性植物やサボテン、多肉植物などが育つ公園に、世界中のアーティスト50人以上の彫刻作品が集められ、展示されている。ケーブグレコ通りとクリス・ネル通りとが交差するところにある。

パラリムニ (Paralimni)

1974年のトルコ軍によるアモホストス占領以来、この小さな町が臨時地区行政の中心となっている。の聖マリア(パナイ



デリニア村

(Deryneia Village)

15世紀から17世紀に建てられた3つの興味深い教会がある。この村からは現在トルコ軍に占領されているアモホストスの“ゴースト・シティー”が見渡せる。

ソティラ村

(Sotira Village)

12世紀に建立、16世紀に再建されたアイオス・マス教会。現在一部が廃墟となっているが現存するフレスコ画の大半は当時のもの。西へ約15km行った所には初期キリスト教バジリカであるアイオス・ゲオルギオス教会がある。

フェナロス村

(Frenaros Village)

小さなビザンチン教会がいくつかある。アイオス・アンドロニコス教会とアルカンゲロス・ミカイル教会の歴史は12世紀に遡る。アヤマリナ教

会を祀る双扉ドーム教会は18世紀の珍しい磁器の皿で装飾されている。教会の一部は13世紀の建物でささやかなキリスト教博物館となっている。

会には複数の画家による興味深いフレスコ画がある。

リオペトリ村 (Liopetri Village)

聖マリアを祀る16世紀の教会と、八角形のドームと壁画を有するアイオス・アンドロニコスという15世紀の教会がある。いまでも伝統的な籠作りが見られる。

ポタモス・リオペトリ (Potamos Liopetriou)

絵画のように美しい漁村。近くにはヴェネチア時代の。見晴らし台が残っている。フランスの詩人アルトゥール・ランボーは1880年代、この地方で働いていた。

アヴグル村

(Avgorou Village)

ビザンチン時代から後期・ビザンチン時代にかけての教会が数多く残っている。主な教会は聖ペトロと聖パウロを祀る。教会内には17世紀の両面イコン2点が存在する。他にはアイオス・ゲオルギオスのチャペルやアイオス・ゲオルギオス・テラコイティスの教会など。

1. 教会博物館

アヴグル村。古いチャペルを博物館に改築。キリスト教工芸と15世紀に作成されたキリストのイコンなど小規模ながら重要な作品を所蔵

2. 民族学博物館

古い2階建ての建物の中にアヴグル村民族学博物館がある。その展示品は何世代にも渡るこの地方の人々の暮らしを描き出している。

ジロファグウ村 (Xylofagou Village)

村の教会であるアイオス・ゲオルギオスの建立・装飾が行われたのは15世紀後半。1770年に新たなイコンスタシスが完成し、教会はその後、修道院となる。受胎告知とキリスト降誕が教会の最も大切な壁画である。

ケーブグレコ国立公園 (Cape Greko National Park)

ここにはアフロディーテを祭る神殿があったと伝えられている。ケーブグレコ国立公園は勇壮な断崖の景観が特徴の自然の美しい地域である。自然遊歩道はアフロディーテカルチャールートにつながっている。

“キプロスでわたしは、忘れられた歴史の
むかからよみがえってきて現在に光を投げ
かけるこうした事跡に、さらにつぎつぎと
出くわした。ハルーン・アル・ラシッド、
アレクサンダー、獅子心王リチャード、と
いった侵略者たち、カテリーナ・コルナ
ーロとか、ヘレン・パレオロガスとかいった
女たち……東レヴァントの水たまりに浮か
んだちのぼけな島の上に寄り集まって、そ
の歴史を動かし、照らし出し、それに重要
性と深い焦点を与えた、いくつかの相異なる
宿命。”

～「にがいレモン」ロレンス・ダレル
幾野 宏 訳

CYPRUS 旅行プラン

島自体を目的にするのも、何かテーマを決めて旅するのも、
楽しみ方はいろいろ



Akamas Peninsula



Governors Beach, Lemesos

キプロスでの、滞在時間が1週間以上でも、たった数日でも皆様それぞれの日程に応じたあらゆるプランが可能です。悠久の歴史を持つ島ですが、あまり大きすぎないので各地を効率的に周遊することができます。

例えば東のラルナカから西のパフォスへ行くときに、首都で島の中心にあるレフコシアやトロードス山域を組み合わせると、だいたい3日から5日の行程になります。または海岸線に沿って、アヤナパのビーチからパフォス、さらにその先にあるワイルドなアカマス半島を目指すコース、途中のレメソスではクーリオン古代遺跡やトロードス山麓のブドウ畑の観光なども組み合わせるとだいたい7日間の行程です。その他にも目的のあるコース、自然散策やハイキング、遺跡巡り、ビーチ巡り、アフロディーテの足跡を辿ったり等々、文明の十字路キプロスならではの楽しみ方と発見があるでしょう。

モデルコース

1日目 - レフコシア

午前: キプロス手工芸センター、キプロス考古学博物館、ビザンチン博物館、アートギャラリー、聖ヨハネ・カセドラルを訪ねる。

旧市街ライキ・イトニアで昼食。古い民家や建物を改築したカフェやタベルナ、みやげもの屋、ギャラリーなどがあります。

午後: ハジゲオルガキス・コルネシオス民族学博物館、ニコシア市立レヴェンティス博物館。

2日目 - レメソス

午前: 13世紀のコロッシ城、重要な古代王国のひとつクーリオンの遺跡とアポロン神殿。

午後: レメソス中世城、アマサス古代遺跡。

3日目 - パフォス

パフォス郊外: アフロディーテ誕生伝説の地、“ベトラ・トゥ・ロミウ”を訪ねる。

パフォス市内: 王族の墓、モザイクの美しいエイオン/ディオニソス/テセウスの館があるパフォス古代公園。パフォス港で昼食、午後はパフォス城と聖パウロの柱へ。パフォスは街全体がユネスコ世界遺産に登録されている。

4日目 - パフォス

午前: ペギア村のアイオス・ネオフィトス修道院を、海水に浸食された断崖洞窟のアイオス・ゲオルギオス。

昼食はラッチ村のシーサイド・レストランで新鮮な魚料理を堪能。

午後: アフロディーテの泉を訪ねた後はアカマス半島の自然。散策路をハイキング。

5日目 - ラルナカ

午前: 聖ラザロス教会、ピエリーデス博物館、キティオン古代王国遺跡。椰子の並木通りで昼食。

午後: ユネスコ世界遺産のヒロキティア新石器時代集落遺跡、伝統手芸レフカラレースで有名なレフカラ村。

6日目 - トロードス山域

午前: キプロス最大で荘厳な修道院キコスと付属宝物館。ペドゥラス村での昼食後、ユネスコ世界遺産に登録されたビザンチン教会アルカンゲロス・ミカイルへ。

午後: ユネスコ世界遺産登録の重要な教会をもう一か所、カコペトリア村のアイオス・ニコラオス・ティス・ステギス教会を訪ね、

石作りの古い家屋が特徴の村を散策

7日目 - アモホストス地域

午前: アヤナバ市立海の博物館「サラッサ」とアヤナバ修道院を訪ねる。

午後: アヤナバやバラリム二のビーチで海水浴やケーブルグレコの自然散策路トレッキングなどで楽しみましょう。

オプション

オモドス村: 古いアイコンや木彫りの装飾など教会の調度品が素晴らしいスタヴロス修道院、規模は小さいが独立闘争博物館も見どころ。

フィラクドゥ村: 18世紀の町並みを歴史的遺産として守るため、村全体が保存区域になっている。



CYPRUS' カルチャールート



キプロスの交通手段は車です。

自動車道がよく整備されており町から町への移動も容易です。

テーマごとの行程プランをご案内します。

-歴史をたどる-

神話と伝統が色濃く残り、地中海特有の歴史、文化、伝統が息づいているキプロス島。過去の暮らしを尊びながらも現代的な生活を営んでいるキプロスにやってくる、古代と現代とが混ざり合ったような感覚に誘われてしまいます。

ほとんどの旅行者にとってキプロスの玄関口となる魅力的なラルナカから旅は始まります。内陸部にある首都レフコシア。美しいビーチに囲まれたレメソスやパフォス、アモホストス。杉や松の茂るトロードス。ユニークで掛け替えのない旅が期待できるところばかりです。キプロスでぜひ体験していただきたいカルチャールートをご紹介します。20ページの日程プランも合わせてご参照ください。

古代遺跡ルート

復元された円筒形住居がユニークなテンタやヒロキティアといった古代の集落を訪れ、石器時代の暮らしに思いを馳せるルート。

銅交易の中心地だった古代王国キティオンでは貿易港跡などを巡り、現代都市レメソス近くにあった2つの古代王国クーリオンとアマサスからは眺望を楽しむ。アマサスでは現在ルーブル美術館に展示されている世界最大の石壺が発見されたクーリオンの古代円形劇場へ。そこでは今も様々なイベントが催される。ククリアにある世界遺産のアフロディーテ神殿や、パフォスの王族の墓、鮮やかで巧みなモザイク遺跡を訪ねる。

東部ルート

白砂ビーチのアヤナバ、または風車の町プロタラスを起点に島の東部を訪ねるルート。

コキノコリリア（赤土の村）の農業地帯を走り抜け、海沿いの椰子の木通りが目印のラルナカを通り、メネウを過ぎるとキティ村。キティでは美しいビザンチン教会アンゲロクティスティを訪れ、それからマゾス博物館やキャメルパークへ。険しい岩山の頂上に建つスタヴロヴー二修道院、山の中腹にあるレースと銀細工が有名なレフカラ村などを訪ねる。

自然探索ルート

年間を通して快適な気候のもと自然を楽しむルート。自然散策路には標識も整備されていて、また自然を通して島の歴史や文化を知ることができます。地中海キプロスならではの美しい景色が楽しめる自然散策コースは全部で52あります。島を自分の足で歩きながら、様々な動物や植物、古代キプロスに繁栄をもたらした鉱山の跡等々きつと新たなキプロスの魅力を発見できるでしょう。

ビザンチン・ルート

有名な壁画教会を訪れるルート。キプロスでは10か所のビザンチン教会がユネスコ世界文化遺産に登録されている。勾配のある特徴的な木製の屋根、アイコンとフレスコの教

々が見事。トロードス山域のマラサッサ、ソレア、ピツイリア地区の美しい林の中に点在する教会はとても印象的です。

アフロディーテ・ルート

キプロスの守護神、愛と美の女神アフロディーテの足跡をたどるルート。古代アフロディーテ信仰の聖地だったパレアパフォス（ククリア）、アマサス、キティオンがルートのポイントになる。女神アフロディーテに関連の所蔵品のある博物館や伝説の場所などにもつながっており、アフロディーテの誕生や信仰など歴史と文化を学べる。儀式に関係していた植物や貝殻についても知ることができる。

西部ルート

豊かな自然が残るキプロス西部を旅するルート

ショートコース：昔ながらの家屋が残るポリス周辺、ビーチ沿いに進みボモスへ。ボモスには可愛らしい漁師小屋のあるボモスや、巡礼者の訪れる大切な教会のあるバキアモスへ。帰りは山に入りスタヴロス・ティス・プソカスを経由するとムフロンが見られるかもしれません。リソスとビザンチン博物館のあるペリステロナを通り帰ります。

ロングコース：パフォスまで戻る途中にキプロス過ぎの谷から山に入り、キコス修道院、プラトレスを訪れ、ディアリソス溪谷を通して山を下ります。



CYPRUS

アクティビティ

“(中略) キプロス流の歓待とはどういうものか、その真の意味を理解しはじめた。要するにそれは、ただ「コピアステ」の一語に尽きる。(この言葉を大げっぽに訳せば、「坐れよ、一緒にやろう」ということになる。)

カフェコイオン
喫茶兼軽食堂の前を通りかかって、中で飲み食いをしている知り合いと挨拶を交わすようなとき、その相手の口から、まるで銃口から飛び出す弾丸のように、この言葉がこちらを目掛けて飛び出してくるのを聞かないですむことは決してなかった。”

～ローレンス・ダレル
『にがいレモン』
幾野宏訳 (筑摩書房)

文明の十字路口キプロスは古代遺跡や歴史物語で知られていますがそれだけではありません。自然散策、アドベンチャー・スポーツ、ゴルフ、サイクリング、バードウォッチングなど、気候に恵まれたキプロスでの楽しみ方は尽きません。東地中海の紺碧の海に浮かぶアフロディーテの島は皆様のどのような期待にも沿えるよう用意万端です。いろいろなアウトドア・アクティビティはもちろん、忘れられない思い出となる結婚式やハネムーン、学会や国際会議の会場設備も整っています

遺跡

キプロスは考古学ファンにとって尽きることのない魅力をたたえています。島の各地に古代ギリシャ・ローマ時代の遺構がありますが、その歴史は新石器時代にまで遡ります。青銅器時代、ローマ時代、ビザンチン時代の遺跡が特に多く見られます。象徴的な遺跡のひとつが、レメソス西側の小高い丘の上に建つクーリオンです。ギリシャのペロポネソス半島アルゴスから入植してきたアカイア人によってBC13世紀から12世紀にかけて基礎が築かれ、キプロスの最も重要な古代都市王国に発展した地です。風光明媚なキプロス西部、パフォスではアフロディーテ神殿のあるククリア（パレア・パフォス）からネア・パフォスにかけての地域にある多くの遺跡がユネスコ世界文化遺産に登録されました。この一帯は、古代アフロディーテ信仰の聖地として、またキリスト教の布教の原点でもあった重要な土地です。そしてパフォスにはディオニソスの館やテセウスの館などのローマ時代のモザイクやパナイヤ・フリソポリティッサ教会がとても良い状態で保存されていますので見逃せません。

家族みんなで楽しむ

大きくなった子供も小さな子供たちもキプロスに来れば、一万年の歴史と文明の世界にタイムスリップ！タイムカプセルに乗った気分で美しいおとぎ話の世界へ冒険に行きましょう。中世城に一步入ればそこは何百年もの前の王様の結婚式の会場。新石器時代の住居跡を歩きながら、石器時代の人々がどうやって暮らしていたのかを学びます。森を歩いてだれも知らない滝を見つけたり。もっと勇気を奮い立たせたい！もっと冒険したい！新しいことに挑戦したい！のであれば、髪の毛が逆立つようなウォーターパークのウォーターライダーがあります。森のアドベンチャーパークではジップラインで滑降したり、カートで高速ドライブも挑戦できます。もっと違ったものに乗りたいときには、もしも動物好きでしたらドンキーパークやキャメルパークでロバやラクダに乗せてもらいましょう。





スポーツを楽しみたいときはゴルフやミニゴルフ、ボーリングもあります。もっと小さなお子様のためにはプレイグラウンドが用意されています。キプロスは誰でもみんな一緒に楽しめる場所なのです。

ウェディングとハネムーン

結婚式の場所としての人気が年々高まっており、キプロスは地中海で最も人気のある誓いの場所のひとつとなりました。夕日を背景に雄大な景色の広がる海辺のチャペルから、キプロス最大のリゾート・ホテルに設けられたチャペルまで、自分達の好みで結婚の誓いを交わす場所を選べます。1年のうち晴天が330日もあってロマンチックなキプロスは最高のハネムーン先です。田舎を旅してその土地の伝統や自然を発見したり、島のビーチリゾートをちょっと贅沢に楽しんだりしながらおくつろぎください。

国際会議、ビジネスミーティング

キプロスは国際会議やビジネスミーティングの場所としても人気があり、主要なホテルでは会議設備とサービスが整っています。レフコシアのキプロス国際会議センターは、東地中海諸国の中では最大で設備も整った施設で、大規模な会議等に対応しています。もし会議企画者がキプロスに一日でも滞在するチャンスがあれば、キプロスがビジネスミーティングのために完璧なところであることを理解いただけるでしょう。

スポーツとアドベンチャー

キプロスの起伏に富んだ地形と温暖な気候は、マウンテンバイクやクライミング、マリンスポーツなどを楽しむには最適です。サイクリストにとってはまさに天国。松の香り漂うトロードス山域中心部の舗装されていない道から、岩だらけの大地のアカマス半島まで色んなルートを選ぶことができます。とても美しいこのエリアでは誰にも邪魔されずに泳いだり、サイクリングしたり、ウォーキングしたりして楽しめます。セーリングやウィンドサーフィン、カイトサーフィン、シュノーケリング、水泳、スキューバダイビングなどマリンスポーツをするのに、キプロスの透き通った海は理想的です。ハイキングコースは、自然の残るトロードス山域やアカマス半島が一層楽しめるでしょう。

ゴルフ

キプロスでは一年中ゴルフが楽しめます。18ホールのゴルフ・コースがいくつかあり、どのコースでもゴルフクラブがレンタルできます。ゴルフコースは4か所いずれもパフォスにあります。アフロディーテ・ヒルズ・ゴルフクラブ、シークレット渓谷のエレア・ゴルフコース、12世紀の修道院の建つ美しい丘にあるミンティス・ヒルズ・ゴルフクラブなどです。レベルに応じた様々なコースが用意されています。





キプロスの食事

キプロスではギリシャ、トルコ、東地中海沿岸地方など様々な地域の様々な風味や調理法の影響を受けた料理を楽しむことができます。その最も代表的なのが、クベツピア（ぶどうの葉の詰めもの）やムサカ、ヴィレツジ・サラダなど手の込んだ郷土料理をセットにしたメゼです。レストランやタベルナでは、シーフードか肉のメゼを選びます。何種類もの前菜に続いてシーフードや肉の料理が次々と運ばれてきます。

地中海料理の真髄

キプロスの食事は典型的な伝統的地中海料理で、新鮮な果物、野菜、オリーブオイル、海産物が欠かせません。野菜料理が充実していて、例えば叩いてヒビを入れたグリーンオリーブにコリアンダーシードとレモン、つぶしたガーリックを入れてマリネにしたエリエス・ツァキステス。小さなパイ生地にかぼちゃやレーズン、つぶした小麦ピラフを詰めたコロコテス。他にもムングラ（カリフラワーのピクルス）やピーツのピクルス、ローストしたポテトなど、新鮮な野菜を使った料理がたくさんあります。

魚料理では鯛や赤ボラなど。新鮮なムサカやスティファド（ビーフとオニオンの濃厚な煮込み）、地中海産のハーブをまぶしたぶつ切りのラム肉をホイルなどで包み、キプロス伝統の土窯で長時間も蒸し焼きにしたオフト・クレフティコといった料理の数々が旺盛な食欲を満たしてくれることでしょう。

ハルミは、キプロス特産のチーズでキプロスでは毎日食卓に上ります。タイムを餌に育てられた羊のミルクから作ります。温めてもとろけないのでグリルして食べる人が多いです。海外からの人気が高まるにつれ、キプロスのレストランでは定番の一皿となりました。そのままでももちろん美味しいですが、グリルした野菜やスイカとの組み合わせは最高です。

キプロスはブドウでも有名です。そして地元のデザートと言えば果物やシュジュコ（ぶどうジュースから作るアーモンド入りの菓子）です。キプロスコーヒーと一緒にどうぞ。バクラバや熱々のルクマデス（蜂蜜シロップをくぐらせたミニドーナツ）もおススメです。

外食

キプロスで一般的な飲食店と言えば、人気の地元料理を出してくれるリーズナブルなタベルナ（食堂）です。大都市であれ小さな村であれ、ギリシャ・スタイルのタベルナでは、地元の音楽などが演奏されキプロスの雰囲気をつたうりと味わえます。キプロスの人は郷土料理に強い誇りを持っているので、人気のリゾートでも伝統的なキプロス料理が味わえるでしょう。

名物のドネルケバブやサンドイッチ、ピザなどのポピュラーな食事がで

きるカフェやバーも数多くあります。レストランやタベルナでのディナーは夜8時ごろから始まります。キプロスでは伝統的なタベルナ以外にも、いろいろな飲食店があり、あらゆる国の料理が楽しめます。

ナイトライフとエンターテインメント

キプロスではゆっくりと時間をかけて美味しい料理や飲み物を楽しみます。食事の後も楽しみがたくさん！ホテルでは民族音楽やダンスのショータイムでディナー客をもてなします。お客もステージに上がり皆で一緒にギリシャダンスを踊りだすこともあります。ダンスはけっこう簡単なもので、心配りません。クラブやバー、パブなどが揃ったリゾート地でナイトライフを楽しむのが最もポピュラーですが、もっとローカルな楽しみ方もたくさんあります。劇場でのコンサートや舞踊、演劇に出かけるのも一興です。街中の劇場や古代遺跡を利用した特設劇場でのパフォーマンスは時にキプロスの歴史を感じさせてくれるでしょう。チケットはほとんどのホテルで扱っています。





キプロスのワイン

島には古代ギリシャ・ローマや、古代エジプトの時代にまで遡るワイン造りの伝統が息づいています。レメソス (リマソール) のピルゴス村やエリミ村から発掘された6000年以上前のワインの壺はその長い歴史を裏付けています。

島には、世界の中でも非常に古いブドウ品種があり甘口のデザートワイン、コマンドリアは世界最初の本産地呼称統制ワインです。

ワインルート

島には7つのワインルートがあります。アカマス・ラオナ、ヴニ・パナイア、アンペリティス、ピツィリア、そしてレメソスにあるワインの村々 (ワイン村を意味するクラソホリアという名で知られる) です。どの場所でも赤白両方のワインを生産しています。

キプロスを代表するぶどう品種はマプロ (赤) とジヌステリ (白) の2種類です。ジヌステリは最も広く普及している白ブドウ品種で、軽い色合いでアルコール度数の低い (11~11.5%) 軽いワインになります。マプロ (赤) の実は大きくジューシーで、黒味があった軽めのワインができます。伝統ワインコマンドリアはマプロとジヌステリ2種類のブドウから作ります。そしてその搾りかすを利用してできるのが伝統スピリッツ「ジバニア」です。

その他のキプロス土着品種には古代品種のマラセフティコやオフサルモ (いずれも赤) があります。また多数のヨーロッパ品種が導入・栽培されています。白ブドウはシャルドネ、マスカットオブアレキサンドリア、パロミノ、リースリング、ソーヴィニヨンブラン、セミリオン。赤ブドウはアリカンテペーシェやカベルネフラン、カベルネソーヴィニヨン、サンソー、グレナシュノワール、マタロ、シラー などで

コマンドリア

世界で最も古いワイン「コマンドリア」を、芳醇な甘口デザートワインとして今でも生産を続けていることはキプロスの誇りです。

BC800年頃とされる文献には、「キプロス・ナマ」と呼ばれるぶどう酒が飲まれていたとありますが、これこそ12世紀の十字軍時代に現在のコマンドリアという名称になる以前のぶどう酒だろうと考えられています。病を癒す効果がありトニックとしても広く利用されていました。

リチャード獅子心王はレメソス (リマソール) の地において、キプロス島の攻略とバレンガリアとの婚礼をこの酒で祝い、コマンドリアを「王のワイン、そしてワインの中の王」と讃えました。

リチャードは1192年に島を聖ヨハネ騎士団と Templar 騎士団に売り渡し

ました。島はその後さらにギ・ドゥ・リュジニャンの手に渡りますが、司令塔はコロッシから動きませんでした。コマンドリアは「La Grande Comanderie (ラ・グランデ・コマンドリ=騎士の畑)」と呼ばれていたコロッシ周辺で生産されていました。コマンドリアという名称の由来です。天日干しにしたブドウから絞ったジュースをタンクに移して発酵させます。古い時代には巨大な素焼き壺の中で発酵させていました。

旅で一杯飲むのも楽しいけれど、島の歴史の甘いひとかけとしてお土産に一本いかがでしょうか？

ジバニア

アルコール度数は40%から99%もあることから別名「火酒」と言われています。この強い酒の歴史は、ヴェネチアの支配下に置かれていた14世紀に遡り、その製法は今も変わりません。



行事 & 祝祭日



Lemesos Carnival Parade

キプロスの祝祭日

1月1日	新年
1月6日	神現祭
2月/3月	グリーンマンデイ (ギリシャ正教会のイースターの50日前)
3月25日	ギリシャ・ナショナルデイ
4月1日	ギリシャ系キプロス・ナショナルデイ
4月	聖大金曜日 (ギリシャ正教会)
4月	復活大祭 (ギリシャ正教会)
5月1日	メーデー
5月/6月	五旬祭 (洪水祭り)
8月15日	生神女就寝祭
10月1日	キプロス共和国 独立記念日
10月28日	ギリシャ国家記念日
12月24日	クリスマス・イブ
12月25日	クリスマス
12月26日	ボクシングデイ

祭り、伝統芸能、祝祭

幾重にも積み重なる歴史がキプロスの宗教的伝統、民族芸能の両方を発展させ、今日まで伝えてきました。国民的なお祝いから、島のあちこちで行なわれているローカルなお祭まで、一年中どこかでイベントが開催されています。キプロスを訪れるとそんなイベントを体験することが出来ます。

キプロスでは文化的なイベントから祝祭日の祭りまで様々なイベントがあります。

地中海文化を満喫したいときには中世の要塞跡で上演されるオペラや、古代ギリシャ・ローマ時代の劇場で開かれるコンサートなどはいかがでしょうか。

キプロスの伝統的、宗教的な祭りはヨーロッパの祭りと同様です。新年にはプレゼントを交換し、ヴァシロピタという伝統的な新年のケーキを食べます。海沿いの町で行われる神現祭では、海に投げ込まれた十字架を目掛けて男性たちが海に飛び込み、十字架の争奪戦が始まります。

聖週間にはユダをかたどった人形が焼かれ、イコンが幕で覆われます。5月にはアンセスティア・花まつりが春の到来を告げ、9月には毎年恒例のアート・フェスティバルがニコシア (レフコシア) で開かれます。

春になるとレメソスはカーニバルの拠点になり、盛大なパレードと仮面舞踏会が繰り広げられます。夏には、世界各地の音楽やダンス、演劇グループが集まる演劇フェスティバルが開催され、9月にはワイン・フェスティバルも開かれます。

パフォスでは、8月下旬から9月初旬にパフォス・アフロディーテ・フェスティバルが開催されます。世界中のオペラ・ファンが世界トップクラスのパフォーマンスを見るために中世城広場へ集まってきます。ククリアで毎年5月か6月に開かれるパフォス・インターナショナル室内楽フェスティバルも音楽ファンの楽しみとなっています。



CYPRUS' 宿泊施設

WHERE TO STAY IN CYPRUS

キプロスの宿泊施設は、キプロスらしさを保ちつつ世界的にも高い水準を誇っています。ヨーロッパ最高のリゾート・アイランドの名にふさわしく目的や予算に関わらず上質な時間と空間、心のこもった歓迎を提供してくれます。一人旅やカップル、お友達のグループ、小さなお子さま連れのファミリー、どんな形でも常にアットホームな気分になしてくれます。

東のアヤナパから西のポリスまで、多くのホテルは海岸沿いにあります。スタイリッシュなロビー、広々としたお部屋と贅沢なスイート・ルームが出迎えてくれます。最も豪華なクラスのホテルでは、ビーチがすぐそばで美しいプール付き、グルメな(それでいてインフォーマルな)レストラン、ヘルスクラブやジム、テニスコート、世界的にも有名なヘルス・スパなどの施設を備えています。手頃な価格のホテルでも、有名なキプロスのピュウフェ式の朝食がルーム料金に含まれています。ホテルのHPをチェックしたり、予約の際に問い合わせみてください。

5つ星の高級リゾート・ホテルから、小さくてシンプルな家族経営の施設まで、様々な宿が揃っています。大きなホテルやホテルアパートメント、ツーリスト・ヴィラの他にはトラディショナルハウスやトラディショナルヴィレッジ、ゲストハウス、ユースホステル、そしてキャンプ場もあります。

少し違う体験をしたいのでしたら古民家を再生した宿泊施設トラディショナルハウスはいかがでしょう。まるで地元の人のような生活体験ができるでしょう。

アグロツーリズム・プログラムに沿ったトラディショナルハウスは、美しい景観の村々にあります。

アグロツーリズム・プログラム

ウェブサイト：www.agrotourism.com.cy

問合せ (E-mail)：helpdesk@agrotourism.com.cy



お役立ち情報

旅の前に知っておきたいこと



キプロス

位置：東地中海

面積：9,251平方キロメートル

人口：848,300人（2015年末現在）、ギリシヤ系キプロス人76.15%、トルコ系キプロス人10.2%、外国籍居住者13.7%

首都レフコシア（ニコシア）33万人、レメソス（リマソール）23.7万人、ラルナカ14.43万人、パフォス9.02万人

政治体制・内政

独立共和国、大統領制議会政治、大統領と国会議員は選挙によって選ばれる。任期5年

言語

主要言語はギリシヤ語だが、ほとんどの人が英語を話す。ホテルや公共施設によってはフランス語も通じる。

出発前に

パスポート、必要に応じてビザ、国際免許証を確認ください。予防接種は不要です。

服装とアクティビティ

4月～5月：日中は暑くなることが多いが、朝晩はまだ少し冷えるので、薄手のウールや長袖の軽い羽織があると便利。山里の緑が美しく花も最盛期なので自然散策には絶好の季節。

6月～8月：一年中で最も暑い季節。真夏の服装で。海水浴やマリンスポーツ。

9月～10月：9月はまだまだ真夏の陽気。10月になると日中は暑いが朝晩は冷え込む。真夏の服装と軽い羽織物が必要。海水浴シーズンは10月まで続く。

11月：日中の温かさが心地よい季節。午後になると急激に冷えることもあるので冬物の衣類も必要。戸外でのランチも快適で、ビーチでは日光浴を楽しむ姿がまだ見られる。アウトドアスポーツには最適の季節。

12月～1月：キプロスの人にとっては真冬だが、外国からの旅人にとっては秋の気分かも

しれない。

雨の日も少なくないが、晴れば太陽の陽射しが眩しい。服装は冬服。アウトドアスポーツや観光地巡りは一年中楽しめる。

2月：アーモンドの花が咲き出す季節。天候は不安定で雨のことも多い。春のように温かくなることもあるが、朝晩はまだ寒いので服装は冬服で。トロードスには雪が積もりスキーが楽しめる。

3月：日毎に陽射しが温かくなり、草花が色鮮やかに大地を彩る穏やかな季節。服装はまだ冬服も用意した方がよい。ウォーキングなどアウトドアが快適である。

銀行通貨、クレジットカード

銀行の各種サービスはユーロ並びに各外国通貨で提供している。世界各国の銀行と取引を行っている。国際銀行間金融通信協会（SWIFT）加盟、EU銀行法に則って運営されている。

両替は、ラルナカ及びパフォス国際空港の現金自動預払機（ATM）で行える。ATMは街中の銀行に設置されている。アヤナバやバリム二などのリゾート地にもある。

通貨：ユーロ（€）。

クレジットカード：主要なクレジットカードは大抵の場所で利用可能。

電圧とプラグ

電圧230V、周波数50Hz、プラグタイプはBF

緊急電話番号

緊急時には下記に電話をしてください。英語で対応可能です。

- 救急： **112**
- 消防： **112**
- 警察： **112**
- 薬局*夜間)： **11892**
- NARCOTICS(薬物及び毒物による患者の救急サービス)： **90901401**

マリナー、ヨット・ハーバー

リマソール・マリナー

レメソス市街地に面した港にある。町の中心から歩いてすぐのところ。

経緯度は北緯34度40分、東経33度02分。ベイルート（レバノン）から130海里（約240km）、ポートサイド（エジプト）から205海里（380km）、ロードス島（ギリシヤ）から255海里（約472km）、スエズ・ゲートウェイ（エジプト）から285海里（528km）にあります。

リマソール・マリナーは国際港で通関手続き、入国手続きを行なっている。どんな天候であっても年中無休、24時間アクセス可能。様々なサイズのヨット650隻が係留できる設備を有する。停泊所のサイズは8m～115m。喫水は3.5m～9m。

リマソール・マリナーの敷地内にはショップ40件、レストラン14件のほかバーやカフェ、カルチャーセンター、スパ、フィットネス・クラブがあり、駐車スペースは750台を収容できる。

Tel: +357 25 020 020

Email: info@limassolmarina.com

ラルナカ・マリナー

ラルナカ湾内に位置し、レバノンとシリアからは110海里（約203km）、ポートサイドからは230海里（約426km）、ギリシヤから250海里（約463km）にあります。経緯度は北緯34度55分、東経33度38分。ラルナカ・マリナーは正式な入国港で、様々なサイズのヨット400隻が係留できる設備を有する。キプロスを出入国するヨットはマリナー内での通関、入国手続きを行なうことが可能。

Tel: +357 24 653110

Email: larnaca.marina@cytanet.com.cy

セント・ラファエル・マリナー

セント・ラファエル・ホテルのビーチにあるマリナー。緯度33度11分、経度34度42分に位置する自動車愛好家、ヨット愛好家にとっては理想的な場所。LOA（全長）最大30m、喫水4mのポート全237隻を収容。ヨットは船首で3ヶ所のコンクリートの桟橋に係留され



る。栈橋は新鮮な水、電気、電話、TVなどを完備。

Tel: +357 25 834 255

E-mail: marina@raphael.com.cy

ショッピング・お土産

伝統工芸品では、銅細工品、銀細工やジュエリー、かご細工、レフカラレースや織物などの手芸品が土産物に人気。その他に革製品や陶磁器も定評がある。街中や観光地の土産物店、ホテルのショップなどで売られている。主要都市（レフコシア、レメソス、ラルナカ、パフォス）にあるキプロス手工芸センターでも販売している。キプロスのワインやスピリッツ類の評判は幾世紀も前から海外に広く知られており、いつも一番人気の土産物だ。スーパーマーケットや食料品店で買い求めることができる。靴やシャツ、輸入織物、眼鏡、時計はお買い得。観光地のスーパーマーケットは夜遅くまで開いており、日曜も朝から営業しています。

商店営業時間

商店によって異なるが観光地ではおおよそ月曜～土曜 07:00～21:00

日曜 11:00～14:00

ただし、水曜の午後と日曜は閉めるところがある。

夏期、6月15日～8月31日の午後14:00～17:00は休憩のため閉める（夕方からまた営業する）

クリスマスやイースターの時期は営業時間を延長するが、12月24日（クリスマスイヴ）、12月31日（大晦日）、聖大金曜日（年によって日にちが異なる）は18時に閉店となる。

日の出と日没

毎月15日の日の出と日没の時刻は次の通り。

(※5分ほど誤差あります。)

月	日の出	日没
1月	6:55	17:00
2月	6:35	17:30
3月	6:00	17:55
4月	6:15	19:20
5月	5:45	19:45
6月	5:30	20:00
7月	5:45	20:00
8月	6:05	19:35
9月	6:30	18:55
10月	6:50	18:15
11月	6:20	16:45
12月	6:45	16:35

(4月から10月はサマータイム)

チップ

チップを渡すのは、基本的には個人の判断です。ホテルや飲食店の従業員には喜ばれます。タクシードライバーやポーターに重い荷物を運んでもらった時や、美容師に気に入った髪形にしてもらった時には感謝の気持ちとして渡すのがいいでしょう。

交通機関

バスとシャトル・バス

ラルナカ国際空港からは各主要都市にバスとシャトル・バスが出ている。

レンタカー

大手レンタカー会社はラルナカとパフォスの両国際空港を含め全ての街にオフィスを構える。レンタカーは赤のプレートなのですぐ見分けが付く。

車をレンタルする場合に知っておきたい

情報

保険が適用されるのはキプロス共和国の管理下にある地域内のみ。

料金は車種、日数、借りる時期、オプション等によって異なる。保険は別料金となっている。

走行距離は無制限。

予約により空港での貸し出し、返却が可能。

ガソリンは通常、満タンで貸し出されません。ガソリン代を含んだ料金なので、契約書に特に明記のない限り、満タンで返却するとその代金が戻ってくる。

免許取得から3年未満で25歳未満のドライバーは、レンタル時にレンタカー会社にその旨を告げ、～才未満保険の適用を受けなければならない。

車両を破損させた場合、車種によっては借主が一定の金額を負担する責任を有する。

免許証

キプロスでは、有効な国際運転免許証、あるいは自国の国内運転免許証で運転することができます。

ヨーロッパの運転免許証は法律第94(1)/10条により正式に認められている。

ノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタイン、オーストラリア、スイス、ジンバブエ、アメリカ合衆国、日本、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ、ロシアの発行する運転免許証は、6ヶ月ごとに更新しなければならない。非ヨーロッパ系の市民ならびに上記の国以外の出身者は、30日以内であれば自国の運転免許証を所持することで運転することが認められる（この期間はそれほど厳格には運用されていない）。

国際運転免許証を所持する者は、免許が有効であることを条件に運転することが認められる。

タクシーの運行

キプロスではインターシティー・サービス・タクシーが全主要都市を結んでおり、30分ごとに運行している。4人～7人の相乗りとなる。インターシティー・タクシーは空港からは運行していない。

バリアフリーのキプロス

旅の移動に特別な助けが必要な方のための情報



身体的な障害を抱えた方や特別なニーズをお持ちの方には、さまざまな設備がご利用いただけるようになっていきます。それぞれの方に必要なサービスと設備を備えているホテルもあります。設備はホテルごとに異なるため、事前に連絡を取り具体的な状況を確認されることをお勧めします。身体障害者のための設備を備えているホテルはキプロス政府観光局のウェブサイト (www.visitcyprus.com) でご確認ください。

ラルナカとパフォスの国際空港はいずれも、バリアフリーの行き届いた空港です。バリアフリーのトイレ、出発ゲートに設けられた電動車いすの充電ステーション、車いすの方がバスを乗り降りするためのスロープ、その他、身体障害者の旅行者の権利に関するヨーロッパ法第1107/2006条に適合したバリアフリー・サービスなどがあります。2007年にはキプロスの国会において、身体障害者が指定の場所で駐車するためのヨーロピアン・ブルー・バッジの使用が承認・導入され、島全土の公道、公共の駐車場にて利用できます。ブルー・バッジ発行機関は、労働社会保健省の身体障害者社会参加局で、連絡先は+357 22 406 406、email: info@dsid.mlsi.gov.cy です。

キプロスでは車椅子移動が容易になるようバリアフリー化が進められていますが、まだ完全ではありません。車椅子利用の場合は必ず同行者と行動するようにしてください。島内の移動の手配が必要な場合は、事前に交通機関までご連絡ください。傾斜のゆるいスロープや安全ベルト付きの特別なバスもご利用いただけます。車椅子のまま乗車できるタクシーもあります。最新情報は各町にあるキプロス政府観光局案内所 (Information) までお問い合わせく

ださい。

ラルナカとパフォスの空港には、オートマチック車を取り扱うレンタカー会社があります。障害を持つ旅行者の方は到着前にレンタカー会社と連絡を取り、必要な装備を手配されることをお勧めします。

空港、港やマリーナ、公共施設、ほとんどの幹線道路と広場、臨海地区やリゾート地、そして観光施設やショッピング・センターの多くで、障害を持つドライバーのための駐車スペースがあります。

役に立つ連絡先
キプロス対麻痺協会
(Cyprus Paraplegics Association (OPAK))
Tel.: +357 22 49 64 94
Fax: +357 22 42 35 40
www.opak.org.cy
email: opak@cytanet.com.cy

キプロス身体障害者協会
(The Pancyprrian Organisation for Disabled Persons)
Tel.: +357 22 42 63 01
Fax: +357 22 31 32 50
e-mail: organofdisabled@cytanet.com.cy

キプロス視覚障害者協会
(Pancyprrian Organization of the Blind)
Tel.: +357 22 81 33 83
Fax: +357 22 49 53 95
email: pot@logos.cy.net
www.facebook.com/potpob/

身体障害者の社会復帰のためのリハビリセンター
(Centre for the Disabled Persons)

Tel.: +357 22 87 13 00
Fax: +357 22 31 11 76

視覚障害者のためのアイオス・バルナバス・スクール
(Agios Varnavas School for the Blind)
Tel.: +357 22 40 33 00
Fax: +357 22 40 33 40

聴覚障害者のためのスクール
(School for the Deaf)
Tel.: +357 22 30 54 22
Fax: +357 22 30 54 23

身体障害者社会参加局
(Department for Social Inclusion of Persons with Disabilities)
Tel.: +357 22 81 50 15
Fax: +357 22 48 23 10
email: info@dsid.mlsi.gov.cy
www.mlsi.gov.cy

通信・公共事業省
(Ministry of Transport Communications and Works)
Tel.: +357 22 80 02 88
Fax: +357 22 77 62 66
www.mcw.gov.cy

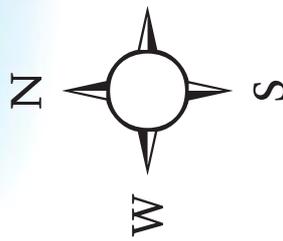
保健省
(Ministry of Health)
Tel.: + 357 22 60 53 00
email: perm.sec@moh.gov.cy
www.moh.gov.cy

緊急時の連絡先 112
(救急車、消防&レスキュー、警察)

CYPRUS

アフロディーテの待つ島

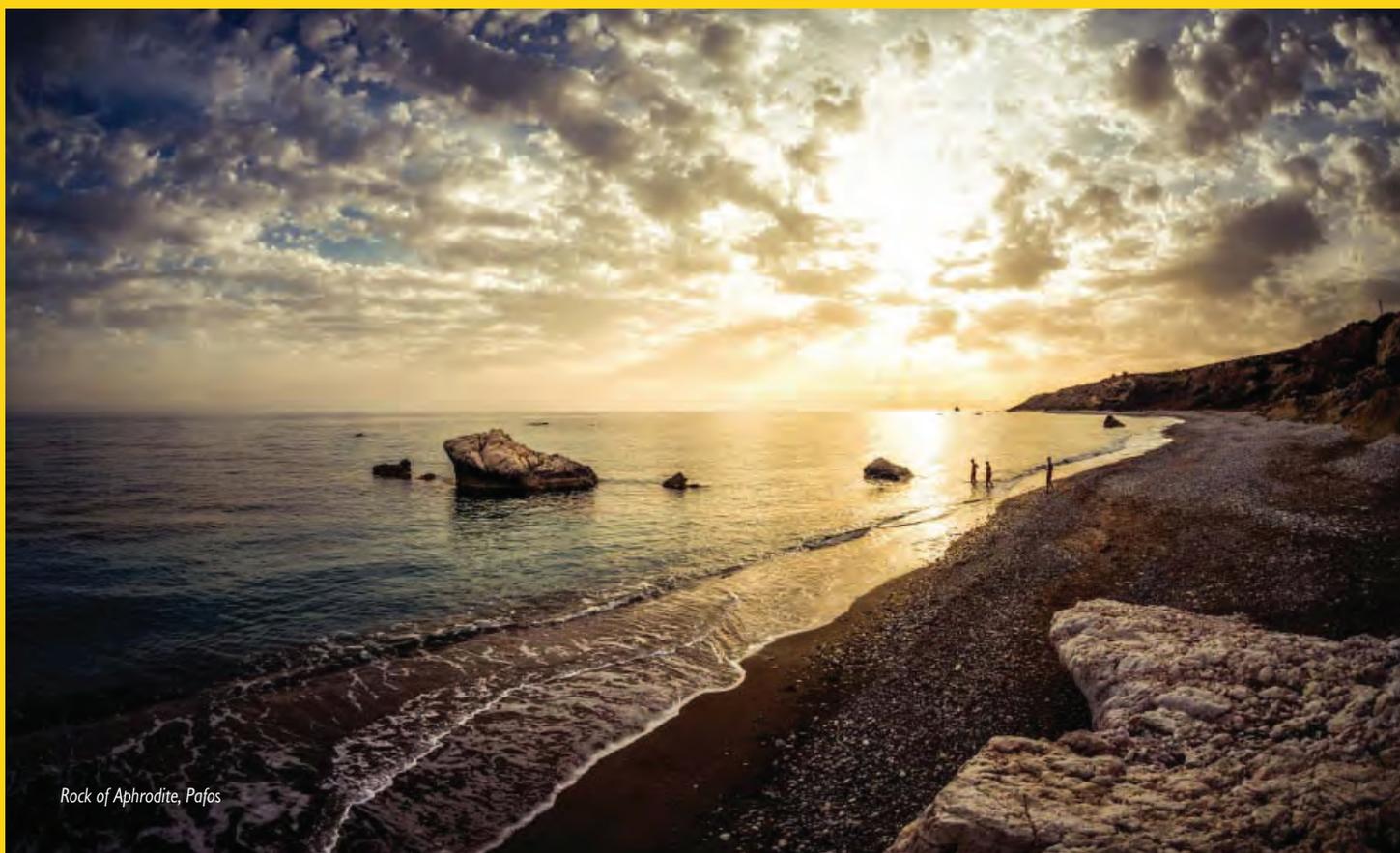
キプロス



汎例

- 街/村
- 遺跡
- ⦿ 修道院
- ⦿ 城
- † ビザンチン教会
- † ツーリスト・インフォメーション

--- トルコ占領地域 (1974年~)



Rock of Aphrodite, Pafos



CYPRUS TOURISM ORGANIZATION
キプロス政府観光局

130 24 17

Cyprus Tourism Organization (Head Office)

(お問い合わせは郵送をお願いします)

Leoforos Lemesou 19, Lefkosia, Cyprus

P.O. Box 24535, CY 1390 • Tel: +357 22 691100 • Fax: +357 22 331644, 22334696

E-mail: cytour@cto.org.cy

www.visitcyprus.com